

防災行動マニュアル

大規模災害発生時の初期活動と帰宅困難者対策

ver.20180817



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



東京大学 大学院
理学系研究科・理学部
SCHOOL OF SCIENCE, THE UNIVERSITY OF TOKYO

目 次

はじめに	3
0. 平時からの準備	
0.1 組織	3
0.2 個人	3
1. 災害の種類と初期行動	
1.1 地震	4
1.1.1 初期行動	4
1.1.2 避難	5
1.1.3 避難経路図	6
1.1.4 安否確認	7
1.1.5 避難解除	7
1.1.6 緊急地震速報	8
1.2 火災	9
1.2.1 初期行動	9
1.2.2 避難	9
1.2.3 安否確認	9
1.2.4 避難解除	10
2. 理学系災害対策本部と号館災害対策部	
2.1 組織図	10
2.2 理学系災害対策本部	11
2.2.1 初期対応から災害応急対応までの流れ	11
2.2.2 設置基準	11
2.2.3 設置場所	11
2.2.4 組織体制（任務内容）	12
2.2.5 災害時の連絡先	14

2.3 号館災害対策部	16
2.3.1 初期対応から災害応急対応までの流れ	16
2.3.2 設置基準	16
2.3.3 設置場所	16
2.3.4 組織体制（任務内容）	16
2.3.5 救出・救助活動に関わる災害救助用工具の活用法	18

3. 帰宅困難者対策

3.1 帰宅困難時の対応	19
--------------------	----

4. 防災資機材・備蓄品の保管場所及びAED設置場所

4.1 防災資機材・備蓄品の保管場所	20
4.2 防災資機材・備蓄品一覧	22
4.3 AED 設置場所	24

5. 発災時の非常放送文例

5.1 地震発生時	25
5.2 自動火災報知設備作動時	25

6. 地震情報および災害用伝言ダイヤル

6.1 地震情報	26
6.2 災害用伝言ダイヤル・伝言板の利用方法	26
6.2.1 NTT 災害用伝言ダイヤル（171）	26
6.2.2 携帯電話災害用伝言板サービス	26

増補記録：	平成 24 年 10 月 12 日	平成 24 年度版発行
	平成 25 年 5 月 17 日	平成 25 年度版改訂
	平成 26 年 4 月 8 日	平成 26 年度版改訂
	平成 27 年 4 月 22 日	平成 27 年度版改訂
	平成 28 年 5 月 12 日	平成 28 年度版改訂
	平成 29 年 4 月 1 日	平成 29 年度版改訂
	平成 30 年 4 月 1 日	平成 30 年度版改訂

参考資料：	東京大学の防災マニュアル 2017
	東京消防庁：「職場の地震対策」、各種防災ビデオ
	工学系研究科地震発生時行動マニュアル

はじめに

本マニュアルは「東京大学の防災マニュアル 2017」に基づき、理学系研究科・理学部及び素粒子物理国際研究センターにおける大規模災害発生時の初期対応および帰宅困難者対策に関する必要事項をまとめたものである。

0. 平時からの準備

大規模災害が発生した場合に、(人的・物的)被害を最小減に抑える「減災」を実現するためには、平時からの予防対策を整えておく必要がある。

0.1 組織

- (1) 建物毎(号館)に避難することを前提にしていることから、「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」を決めて、効率的な安全確保が行えるようにする。
- (2) 「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」については、各々代行者を複数決定し、その代行順位、業務等を併せて決める。
- (3) 複数専攻で利用する建物(雑居ビル)にあつては、専攻間で調整の上、「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」及び建物利用者に周知すべき情報を決める。
- (4) 指定避難場所(一次、セーフティエリア)の確認、講義室・研究室等への掲示、図面表示、標識を整備する。
- (5) 危険物(放射線、化学物質、病原微生物等)対応者を明確化する。
- (6) 負傷者受け入れ場所及び救助用具等の保管場所の整備をする。
- (7) 日常から講義室、演習室、研究室、事務室等々における什器等の固定及び荷物の整理整頓をする。
- (8) 災害発生時、初期対応の任務分担を定めておく。
- (9) 「号館担当者(号館長)」は、建物に所属する構成員の最新名簿を準備しておく。

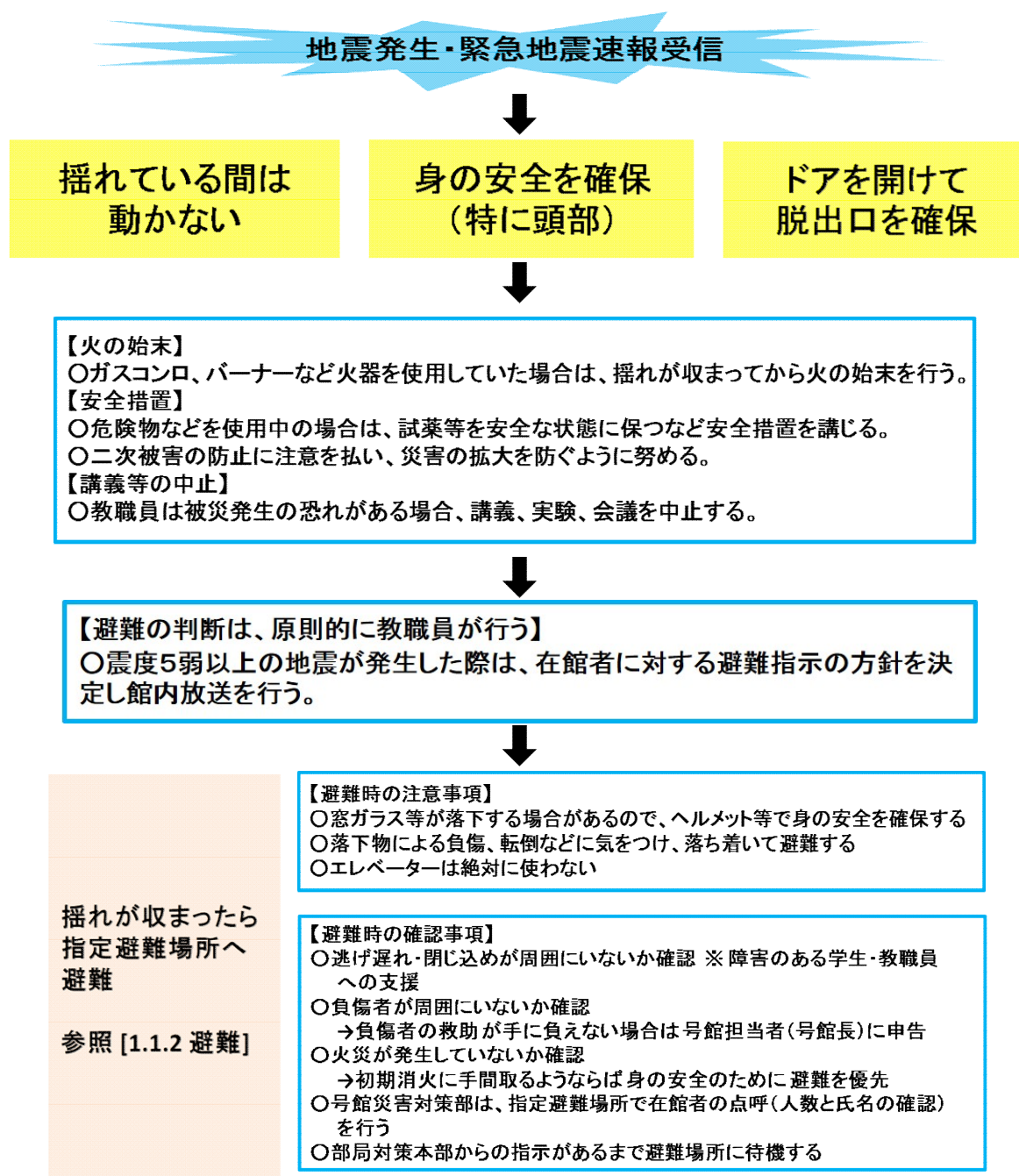
0.2 個人

- (1) 「号館担当者(号館長)および階別担当者」や指定された避難場所を把握しておく。
- (2) 実験室の避難路を確保する。避難路には阻害するものを置かない。
- (3) 消火器、消防用設備の設置場所や建物内避難路を確認しておく。
- (4) 危険物(放射線、化学物質、高圧ガス、病原微生物等)対応者を把握しておく。
- (5) 日常から身の回りおよび研究室における什器等の固定及び荷物の整理整頓をする。
- (6) 不要な溶媒や試薬、既に使用不能となっている機器、不要な書類は廃棄する。
- (7) 研究室スタッフ及び家族との安否確認の方法および連絡手段を複数準備しておく。

1. 災害の準備と初期活動

1.1 地震

1.1.1 初期行動



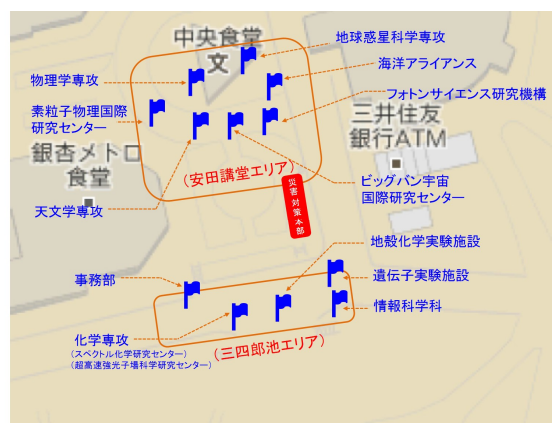
[図 1] 地震発生時の初期行動

1.1.2 避難

地震発生時においては、揺れが収まるまで安全確保に努め、また、建物の構造や階によって揺れの程度が異なることから、建物外に避難するかどうかを教職員が判断し、指定された避難場所に避難する。危険を感じれば指示を待つ必要は無い。

(1) 理学部 1 号館・4 号館・7 号館・化学館・通信機械室

避難先：安田講堂エリア・三四郎池エリア



〔図 2〕 指定避難場所（安田講堂・三四郎池）
注）避難先では必要に応じて交通整理を行う。

〔図 3〕 専攻・施設別避難場所

(2) 理学部 2 号館

避難先：理学部 2 号館玄関前（一次避難場所）、懐徳館庭園（二次避難場所）

※火災発生や建物倒壊等の恐れなど二次災害が想定される場合は、二次避難場所へ移動し、理学系災害対策本部へ報告を行う。



〔図 4〕 2 号館玄関前一次避難場所
注）避難先では必要に応じて交通整理を行う。



〔図 5〕 2 号館二次避難場所

(3) 理学部3号館

避難先：理学部3号館玄関前（一次避難場所）、安田講堂エリア（二次避難場所）

※火災発生や建物倒壊等の恐れなど二次災害が想定される場合は、二次避難場所へ移動し、理学系災害対策本部へ報告を行う。



[図6] 3号館玄関前一次避難場所

注) 避難先では必要に応じて交通整理を行う。

1.1.3 避難経路図



[図7] 屋外避難経路図（安田講堂エリア・三四郎池エリア）

[1号館屋内避難経路]

- ・棟間ブリッジ（2階以上）を使用せず、中央棟・西棟それぞれの最寄階段で避難すること。
特別な指示等があった場合は、その指示に従う。
- ・1号館西棟と中央棟の間の広場（ガラス屋根に覆われた部分）は使用しないこと。

1.1.4 安否確認

- (1) 号館担当者の指示に従う。
- (2) 原則、安否確認は専攻ごとに取りまとめ号館長に報告する。
- (3) 教職員は、速やかに同じ研究室等の教職員、学生の安否を確認する。
- (4) 学生は、大きな揺れがあった場合、研究室等の教職員に安否を連絡する。
- (5) 学生は安否を連絡後、避難先にて待機する。連絡した避難先の変更や友人の安否などの情報が入ったときは、あらためて研究室などの教職員に連絡する。
- (6) 勝手にキャンパス内を移動しない。

1.1.5 避難解除

避難解除（建物内に戻る）は、学内応急危険度判定士の判断に従う。

※応急危険度判定士は、被災建築物の倒壊の危険性及び落下物の危険性等を調査し、当該建築物及び敷地又は周辺建築物の当面の使用可否の判断を行う。

<応急危険度判定活動>

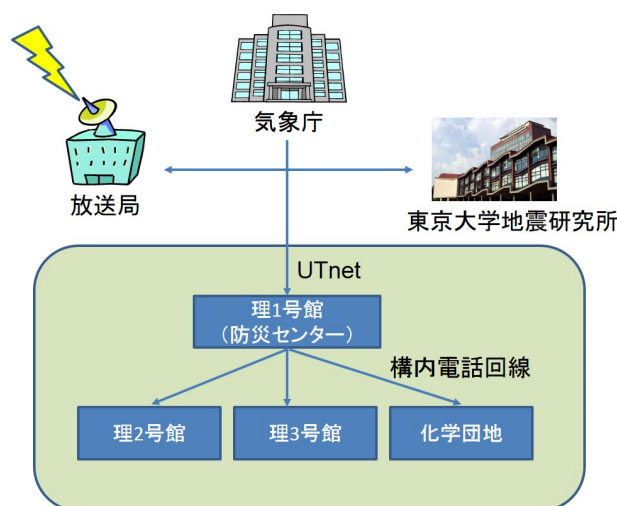


資格を持った応急危険度判定士により、建物の余震に対する安全性の評価と結果の表示が行われる。

応急危険度判定結果	応急危険度判定結果	応急危険度判定結果
危険 UNSAFE	要注意 LIMITED ENTRY	調査済 INSPECTED
※この建築物に立ち入ることは危険です。歩行者や車両は周囲に避難し、応急処置を待つべきです。	※この建築物に立ち入る場合は注意して下さい。歩行者は周囲に注意し、車両は立ち入り禁止です。	※この建築物の安全性は確認済みです。歩行者や車両は通常通り通行可能です。
建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関	建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関	建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関

1.1.6 緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生及びその規模を素早く感知し、地震による強い揺れが始まる数秒から数十秒前に強い揺れが来ることを知らせるものです。理学系研究科では緊急地震速報端末本体を1号館西棟防災センターに設置し、ここを拠点として各号館の館内放送に配信します。緊急地震速報が放送された際は、「1.1.1 初期行動」に挙げる行動をとり、身の安全を図ること。



〔図 8〕 緊急地震速報の伝達経路

- (1) 通常の放送開始条件（受信地点で、強い揺れが予測されるときのみ放送開始）
受信地点の推定計測震度が4.0（震度4の強）以上で放送が開始されます。
- (2) 巨大地震の放送開始条件（巨大地震の時は、やや低い予測震度でも放送開始）
緊急地震速報（警報）が出された地震で、震源のマグニチュードがM7.9以上となった場合は、受信地点の推定計測震度が3.0（震度3の強）以上で放送が開始されます。

〔緊急地震速報放送内容〕

（例）「NHK 音」→「緊急地震速報（Earthquake early warning）」→「大地震です」→「予測震度は6弱」→「安全な場所で身を守ってください（Protect yourself in a safe place）」→「あと5秒（In 5 seconds）」→「安全な場所で身を守ってください（Protect yourself in a safe place）」→「揺れが収まるまで、安全な場所で身を守ってください（Protect yourself in a safe place until the shaking stops）」

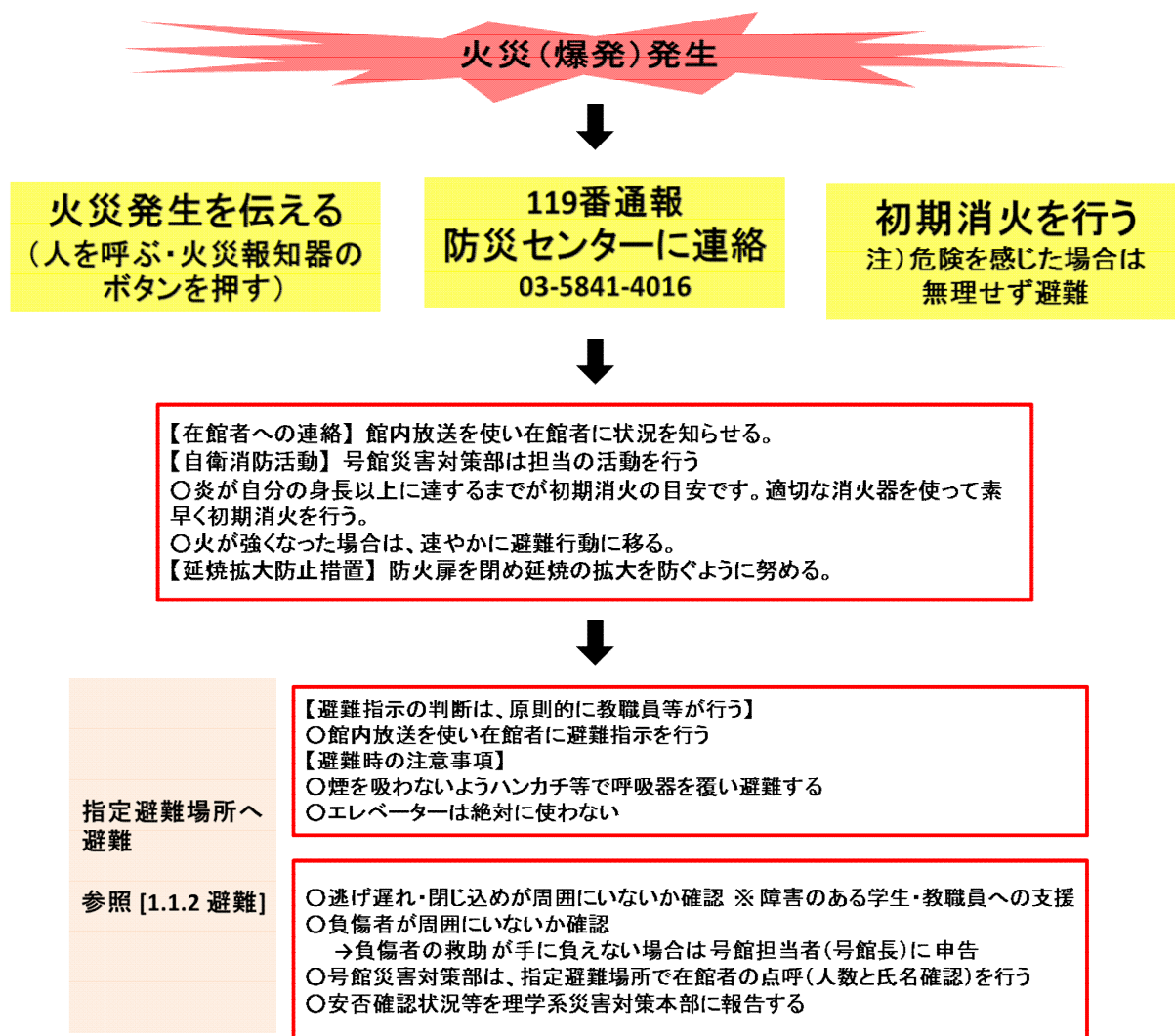
【緊急地震速報の注意点】

- 直下型地震などの場合は、震源近くでは緊急地震速報の発信が間に合わない場合がある。
- ごく短時間のデータだけを使った速報であることから、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もある。

1.2 火災

1.2.1 初期行動

火災発生時においては、まずは大声で「火事だ」と周囲に知らせ、近傍の非常ベルを鳴らし 119 番通報を行うと同時に防災センターに連絡する。



[図 9] 火災発生時の初期行動

1.2.2 避難

館内放送を使い在館者全員および隣接する建物に一斉避難を指示する。避難場所は、本マニュアル「1.1.2 避難」を参照のこと。

1.2.3 安否確認

(1) 建物（号館）担当者の指示に従う。

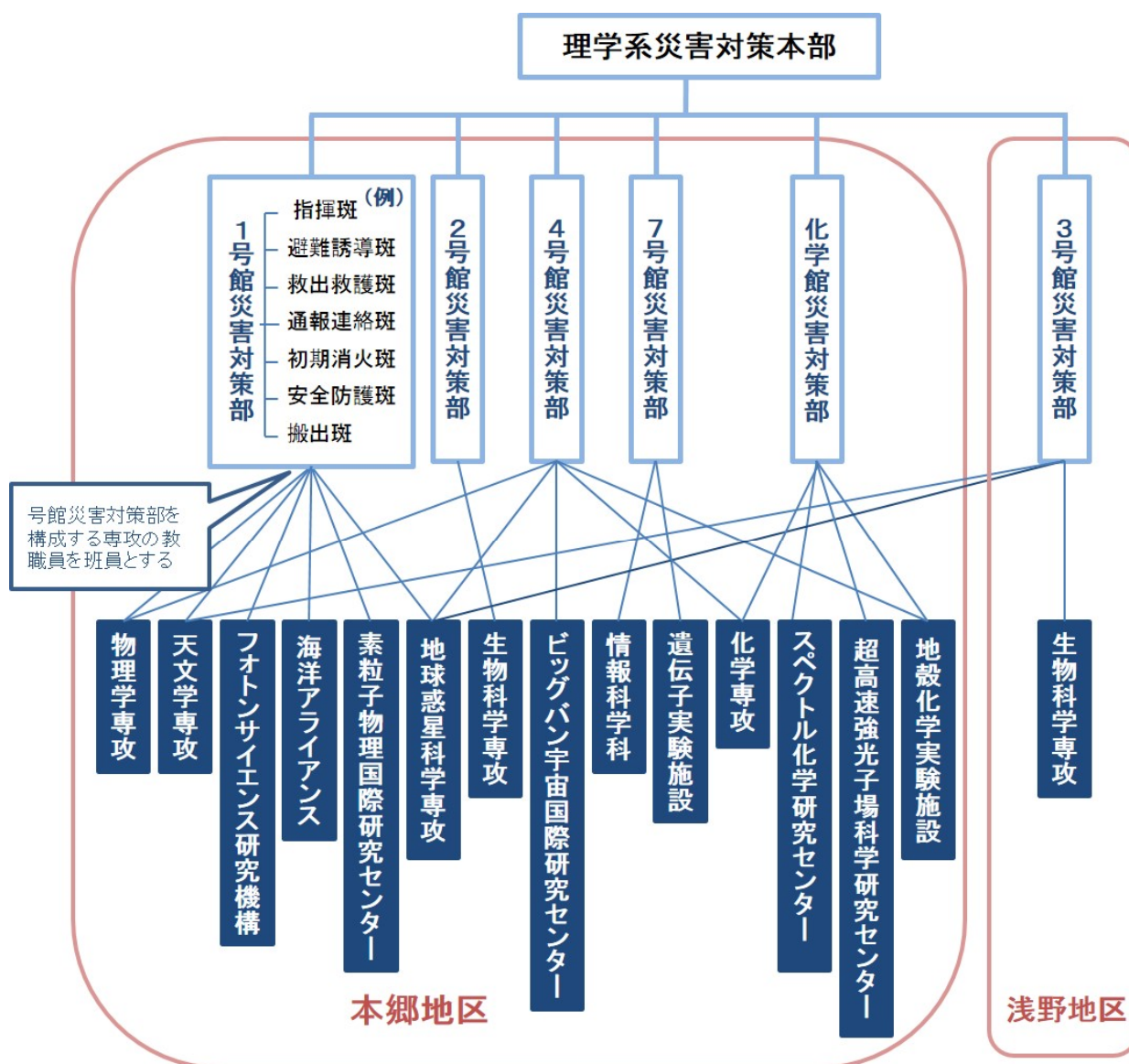
- (2) 原則、安否確認は号館（又は専攻）研究室単位で行う。
 (3) 教職員は、速やかに同じ研究室等の教職員、学生の安否を確認する。

1.2.4 避難解除

避難解除（建物内に戻る）は、消防署と相談した上で号館災害対策部の長が判断する。

2. 理学系災害対策本部と号館災害対策部

2.1 組織図



[図 10] 組織図

2.2 理学系災害対策本部

2.2.1 初期対応から災害応急対応までの流れ

大規模地震等が発生した際は、迅速な初期活動を取り、理学系災害対策本部を設置するとともに初期対応を開始する。その後、危険物・RI・高圧ガス及び施設・設備・ライフライン等の被害状況を収集し、復旧作業に向けた災害応急対応を行う。

2.2.2 設置基準

大規模災害発生時又は防災上特に必要があると認めるとき、あるいは「東京大学災害対策本部長」（総長）から指示があった時は「理学系災害対策本部」を設置する。この「理学系災害対策本部」は、「東京大学災害対策本部」に準じた任務、組織、運営等により編成されるものであり、「消防法施行規則」の規定による「自衛消防のための組織」によって充てることができる。また、夜間・休日を含めた参集基準については次の通りである。

災害種類		状況	場所	参集基準
地震	発生後	震度 6 以上	東京 2 3 区	自動参集
		震度 5 強		適宜判断（スタンバイ→参集）
		震度 5 弱以下		適宜判断
	予報	警戒宣言	東海地震	適宜判断（スタンバイ→参集）

〔表 1〕 理学系災害対策本部参集基準

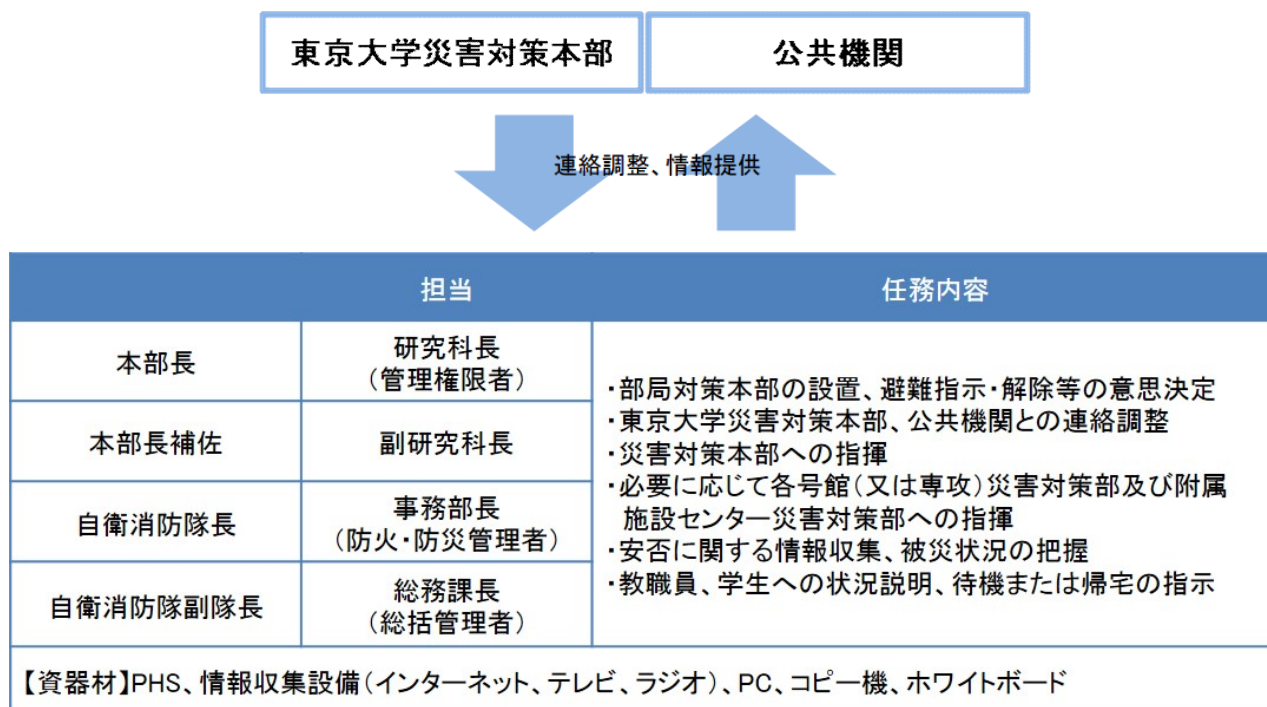
2.2.3 設置場所

初期段階では①、被災状況によっては②に設営する。

- (1) 理学系研究科 1 号館西棟 2 階 205 号室（会議室）
- (2) 安田講堂エリア及び三四郎池エリア（セーフティエリア）

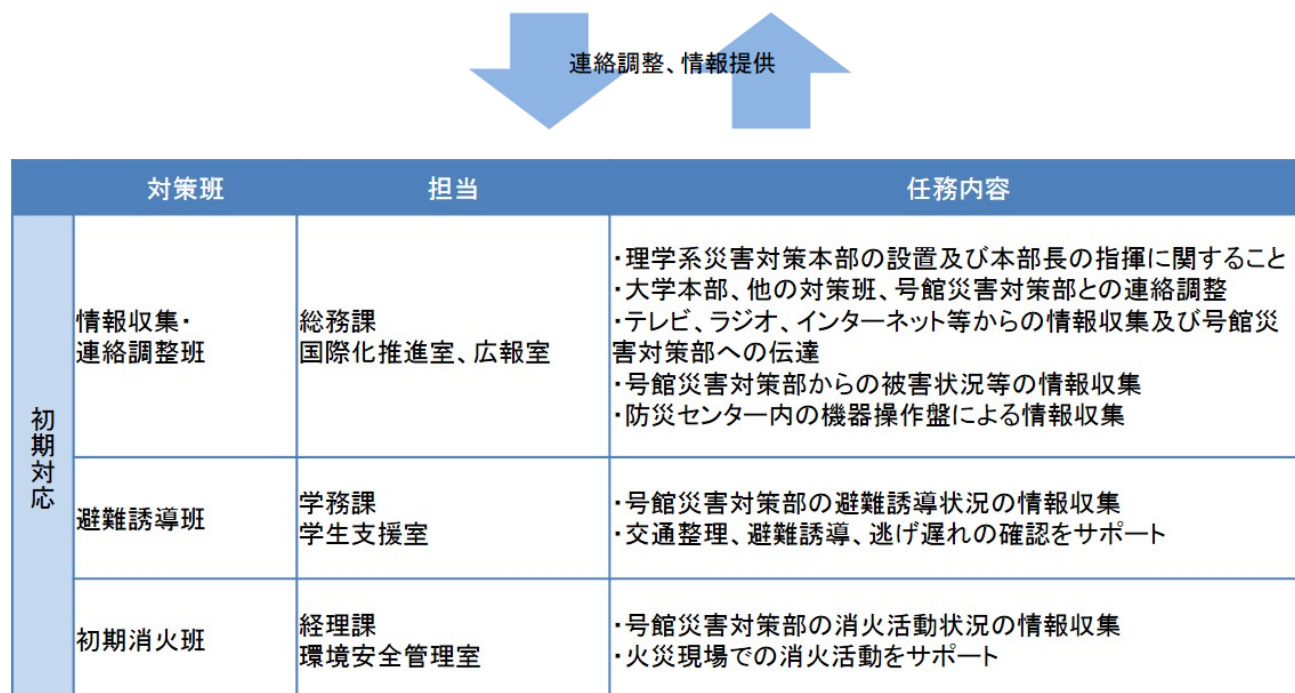
2.2.4 組織体制（任務内容）

「理学系災害対策本部長」（研究科長）の指示に基づき、「理学系災害対策本部」は以下のよう
な組織体制をとり担当の任務を総括する。

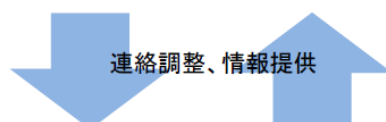


※研究科長不在時は、副研究科長が本部長の任務を代行する。

事務部長は防災管理者として本部長を補佐し、不在時は総務課長が任務を代行する。



初期対応	応急救護班	総務課 国際化推進室、広報室	<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院、保険センターのほか診察可能な医療機関を確認及び情報収集 ・救急隊との連携、情報の提供 ・負傷者応急手当
	【資器材】(総括班)PHS、建築平面図、通報連絡先一覧、ラジオ、パソコン (避難誘導班)PHS、建築平面図、誘導灯等 (初期消火班)PHS、建築平面図、消火器等 (救護班)応急医薬品、医療機関連絡先		
災害応急対応	安全防護班	経理課 環境安全管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備、ライフラインの被害状況の情報収集、復旧 ・危険物及び放射線物質の被害状況の情報収集、復旧 ・建物構造、施設設備、非常用電源、館内放送設備の整備 ・二次災害の恐れのある区域への立入制限
	物資対策班 ※地震等が収まった後の対応	経理課 情報システムチーム	・災害救援物資(防災用機材、備蓄品、医薬品)の調達と分配
	学生対策班 ※地震等が収まった後の対応	学務課 学生支援室	・学生の安否確認の情報収集等
	【資器材】(安全防護班)建築平面図、マスターキー、エレベーターの鍵、照明器具、防水シート、ロープ、各種標識、カメラ等 (物資対策班)災害救援物資設置及び保管場所の鍵、台車等 (学生班)学籍名簿		



号館災害対策部

〔図 11〕 理学系災害対策本部の任務内容（勤務時間内）

事項	任務内容
出勤	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6弱以上の地震が発生した場合は、家族や家屋等の安全を確認後、交通手段等の状況を判断して可能な限り出勤する。 ・震度4以上～震度5強の地震では、部局長からの指示があれば出勤する。
避難、安否確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業場に残っている対策本部員は研究科長と連絡をとり在館者に対する避難指示の方針を決定する。 ・館内放送を用いて在館者に向けて避難指示を行う。
被害状況確認	<ul style="list-style-type: none"> ・調査可能な範囲において施設、設備、ライフラインなどの物的被害状況を確認する。また、二次災害が発生する可能性がある場所には立入を禁止する。 ・調査可能な範囲において危険物及び放射性物質の被害状況を確認し災害の拡大を防止する。

〔表 2〕 勤務時間外における出勤判断基準と任務内容

2.2.5 災害時の連絡先

(1) 理学系災害対策本部連絡先

部署名	連絡事由	電話番号
理学系災害対策本部 1号館西棟205室	理学系災害対策本部との連絡調整	内線 28345
研究科長	理学系災害対策本部長	内線 24000 内線 24020
事務部長	自衛消防隊長（防火・防災管理者）	内線 28300
総務課長	自衛消防隊副隊長（統括管理者）	内線 24002 (PHS)
総務チーム総務担当	安否確認に関する情報連絡、連絡調整	内線 24005 内線 20274 (PHS)
経理チーム管理業務担当	施設、設備、ライフラインの被害に関して	内線 28348 内線 24518
経理チーム調達業務担当	防災用機材・医薬品・備蓄品などに関して	内線 24239
環境安全管理室	危険物及び放射性物質の被害に関して	内線 28868 内線 20640
防災センター	防災設備、復旧作業などに関して	内線 24016 内線 28299

[表 3] 部局災害対策本部連絡先

(2) 号館災害対策部組織と連絡先

号館	専攻	連絡先
1号館	物理学専攻	内線 24050
	地球惑星科学専攻	内線 21978
	天文学専攻	内線 24251
	素粒子物理国際研究センター	内線 24231
2号館	生物科学専攻	内線 24451
3号館	生物科学専攻	内線 24403
	天文学専攻	内線 24251

号館	専攻	連絡先
3号館	地球惑星科学専攻	内線 21978
4号館	ビッグバン宇宙国際研究センター	内線 24169
7号館	情報科学科	内線 24111
	遺伝子実験施設	内線 23034
化学館	化学専攻	内線 24321
	地殻化学実験施設	内線 24622
	超高速強光子場研究センター	内線 24622

[表 4] 号館災害対策部連絡先

(3) 東京大学災害対策本部関連連絡先

東京大学災害対策本部代表番号 内線22119（外線:03-5841-2119）

部署名	連絡事由	電話番号
災害対策本部（1）山上会館	大学本部との連絡調整	03-3818-3008
災害対策本部（2）本部 12 階	大学本部との連絡調整	内線 82023 内線 82024
環境安全本部環境安全課	被害状況の報告	内線 21051 (24 時間)
安田講堂警備室	人的被害状況の報告	内線 119 内線 24919
施設・資産系総務チーム	物的被害状況の報告	内線 22203
環境安全研究センター	化学物質漏洩等による事故発生	内線 22972
アイソトープ総合センター	放射性同位元素による事故発生	内線 22895 内線 22870
低温センター	液体窒素、ヘリウム等の漏洩事故、配管損傷	内線 22852
医学部附属病院救急	負傷者の受入確認、搬送先	内線 34100 内線 35199
保健センター	負傷者の応急手当、搬送先	内線 22572

[表 5] 東京大学災害対策本部連絡先

2.3 号館災害対策部

2.3.1 初期対応から災害応急対応までの流れ

大規模地震等が発生した際は、迅速な初期活動を取り、号館災害対策部を設置するとともに初期対応を開始する。その後、危険物・RI・高圧ガス及び施設・設備・ライフライン等の被害状況を収集し復旧作業に向けた災害応急対応を行う。

2.3.2 設置基準

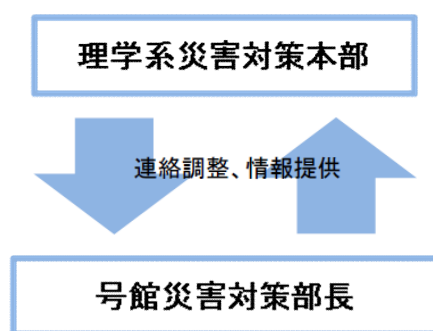
大規模災害発生時又は防災上特に必要があると認めるとき、あるいは「理学系災害対策本部」（研究科長）から指示があった時は「号館災害対策部」を設置する。

2.3.3 設置場所

指定された避難場所または被災状況を確認・集約するに適した場所（火災報知器受信盤設置場所・会議室など）に設置する。

2.3.4 組織体制（任務内容）

「号館災害対策部」は、号館に所属する教職員を構成員とし下図のような組織体制を取り号館長の指示に基づき、各班が災害対策任務を遂行する。また、「消防法施行規則」の規定による「自衛消防のための組織」によって充てることができる。号館災害対策部長の下に対策班を編成し任務を定め、災害の拡大を防止する。



※対策部設置、避難指示の判断、部局対策本部との連絡調整

※安否確認を取りまとめた結果を理学系災害対策本部に報告する。

※被災状況を把握し理学系災害対策本部に報告する。

※号館災害対策部長不在時の代行を決めておく。（班長・副班長の順）

対策班		主な任務内容
初期対応	指揮班	・号館(又は専攻)災害対策部長の指揮に従い班の活動を総括、情報収集・伝達、他の班との連絡調整
	避難誘導班	・避難者の誘導、担当の教職員・学生の安否を確認、必要に応じて避難器具の操作
	救出救護班	・閉じ込め、逃げ遅れ、負傷者の有無を調査、負傷者応急手当、診療可能な医療機関を確認
	通報連絡班	・消防機関、防災センターなど関係部署への通報連絡
	初期消火班	・消火器・消火設備による初期消火活動
【資器材】(指揮班)PHS、トランシーバー、建築平面図、構成員名簿(避難誘導班)マスターキー、名簿、照明器具(救出救護班)応急医薬品(通報連絡班)通報連絡先一覧(初期消火班)消火器具		

災害応急対応	安全防護班	・立入禁止区域への立入制限、物的被害・危険物及び放射性物質の被害状況を確認
	搬出班	・重要書類、非常持ち出し袋の搬出、防災用機材・備蓄品・医薬品の調達
	【資器材】(防護安全班)建築関係図等、防火シャッターやエレベーター等の鍵、ロープ(重要物搬出班)防水シート	

※班編成と任務内容は各号館の実情に合わせた内容とする。

[図 12] 号館災害対策班の主な任務内容

火災が発生した際は、号館自衛消防隊は消防署が到着するまでの間に、自衛消防隊長の下、「指揮班」、「通報連絡班」、「初期消火班」、「避難誘導班」、「救出救護班」等を編成し、「誰が何をどのように行うか」を明確にすることで迅速かつ確実に災害の拡大防止を実行する。自衛消防隊の活動は火災等を知った時点から始まり、消防署が現場に到着した時点で引き継ぐことになる。

事項	任務内容
出勤	・震度6弱以上の地震が発生した場合は、家族や家屋等の安全を確認後、交通手段等の状況を判断して可能な限り出勤する。 ・震度4以上～震度5強の地震では、号館長(又は専攻長)からの指示があれば出勤する。
避難、安否確認	・事業場に残っている教職員・学生は指定された避難場所に集合し、教職員の中から指揮者を決定してその指揮の下で安否確認を行う。 ・館内放送を用いて在館者に向けて避難指示を行う。
被害状況確認	・調査可能な範囲において施設、設備、ライフラインなどの物的被害状況を確認する。また、二次災害が発生する可能性がある場所には立入を禁止する。 ・調査可能な範囲において危険物及び放射性物質の被害状況を確認し災害の拡大を防止する。

[表 6] 号館災害対策班の主な任務内容(勤務時間外)

2.3.5 救出・救助活動に関わる災害救助用工具の活用法

(1) バール・ジャッキの活用法（倒壊物からの救出方法）

地震によって転倒した物の下敷きになった人を救出する時に活用する。活動を行う際は、二次災害防止のためにヘルメット・手袋を着用すること。

状況	バール・ジャッキの活用法
倒壊物と地面との隙間が広い場合	ジャッキを活用し隙間を広げる
倒壊物と地面との隙間が狭い場合	①倒壊物の下にバールを差し込み、端を持ち上げる ②ブロック等で支点を作りバールの端を押し下げる 上記作業で生じた隙間にジャッキを入れ倒壊物を持ち上げる

〔表 7〕 バール・ジャッキの活用法

(2) 担架の活用法（傷病者の搬送方法）

歩行が困難な負傷者や、急病人などを搬送する際に活用する。搬送の際は、けが人や急病人といった傷病者に不安や苦痛を与えることなく安全に運ぶことを心掛ける。

状況	担架の活用法
乗せる前の準備	毛布による保温の準備を行う
乗せる	頭部が動かないように注意して抱き上げ、担架を傷病者の下に移動させる
乗せた後	傷病者をバンドあるいは三角巾で固定する
移動する	平坦地 傷病者の足側から移動する。搬送中は担架を常に水平にし、傷病者の頭側に位置したものは容態の変化に気を付ける
	階段・斜面 傷病者の頭部を高い方へ向ける。昇る場合は頭側から進み、降りる場合は足側から進む。その際、担架は常に水平を保つよう注意する

〔表 8〕 担架の活用法

搬送には状況に応じて、車椅子や台車なども活用できる。傷病者の状態を悪化させないように注意して搬送するとともに、できるだけ早く医師の診断を受けさせるように心掛ける。

3. 帰宅困難者対策

3.1 帰宅困難時の対応

地震発生直後の一斉帰宅行動は、多数の帰宅困難者の発生による交通機関の混乱や二次災害につながる可能性が考えられる。むやみに移動を開始せず、下記判断基準を参考に帰宅の可否を判断する。

(1) 帰宅可否の判断基準 （参考）「職場の地震対策」東京消防庁編

[帰宅を控えた方がよいと思われる事項]

1. 移動距離が 20km 以上ある。
2. 自宅に到着する予想時間が、日没の 1 時間前より後になる。
3. 他の同一方向に帰宅する者がおらず、単独で帰宅することになる。
4. 靴、飲料水・食料その他の個人の装備等が不十分である。

[帰宅を開始する前に確認した方がよい事項]

1. 天候等の条件
2. 帰宅ルート（通行可否を含む）及び帰宅予想時間
3. 延焼火災、建物倒壊、液状化の災害の情報が帰宅ルートと重なっていないか
4. 交通規制の有無や代替ルート確保の可否
5. 路上に大量の帰宅困難者があふれていないか

(2) 残留者への対応

1. 帰宅困難者にとって必要な情報を定期的に提供する。

例) 発災後の震源地、地震の規模、建物の安全性に関する情報、地域の災害状況、交通機関の運行情報、主要幹線道路の通行状況、使用できるトイレやエレベーター

2. 残留者を安全に保護できる待機場所を選定する。

建物の耐震化、オフィス家具類の転倒・落下、ガラスの飛散防止、備蓄倉庫の設置場所などを考慮し、待機人員が安全に滞在できる環境であること。

(3) 帰宅開始時の対応

1. 帰宅支援用の防災用品の支給・貸出
2. ヘルメット・非常用の飲料水・軍手・マスクなど

4. 防災資機材・備蓄品の保管場所及びAED設置場所

[平成 30 年 8 月 17 日現在]

4.1 防災資機材・備蓄品の保管場所

施設名	保管場所	主たる備蓄品	鍵の管理
1号館	1号館東棟1階174号室 (防災倉庫)	救助用具キット、救急箱、手動式ラジオ、水、食料(アルファーマイ、クラッカー)、毛布、固形燃料、軍手、マスク、簡易トイレ、カセットコンロ、ガスボンベ、鍋、ポリタンク、ヘルメット、生理用ナプキン、調理器具、飲料水ポリタンク、ポリ袋、紙コップなど	環境安全管理室 防災センター
	1号館西棟1階防災センター	携帯用無線、担架、大型拡声器、救助用具キット、専攻・施設ののぼり(一部除く)	24時間センター 職員常駐
	1号館西棟2階物理専攻長室隣室 (排気ファン室)	水、食料(アルファーマイ、クラッカー)	総務担当 防災センター
	1号館中央棟3階北側 (空調機械室)	水、食料(アルファーマイ、クラッカー)	総務担当 防災センター
	1号館環境安全管理室 (西棟103号室)	ライト、手動式ラジオ等	環境安全管理室 防災センター
2号館	1階男性休憩室(101号室)	食糧(クラッカー、アルファーマイ)、水、紙コップ、鍋等、毛布、手動式ラジオ、懐中電灯、ローソク、災害用救急箱、タオル、防水シート、ビニール袋、簡易トイレ、食糧(クラッカー)、水、紙コップ	生科総務 防災センター
3号館	5階の生物情報科学科の倉庫	食料、毛布、担架等(第2回配布分すべて)	生情事務 防災センター
	第1回配布分の水とビスケットは各研究室で保管。事務室と地惑分については生物科学専攻事務室で保管	第1回配布分の水とビスケット	各研究室 防災センター
4号館 (ビッグバン)	4号館6階1624号室倉庫		事務室 防災センター
7号館	7号館1階情報科学科事務室隣 防災物品入れ	情報科学科・遺伝子実験施設ののぼり、拡声器、救急箱、ライト、手動式ラジオ、レスキューセット	常時開錠
	7号館2階206号室	情報科学科・遺伝子実験施設用のその他の備蓄品	
化学館	化学本館中5階機械室	化学館への割り当て分すべて	事務室 防災センター

[表 9] (本郷・浅野地区) 防災資機材・備蓄品保管場所

施設名	保管場所	主たる備蓄品	鍵の管理
小石川植物園	事務室前室	救助用具キット、救急箱	事務室
	管理棟そばの施錠出来る(倉庫)物置	手動式ラジオ、水、食料、毛布、固形燃料、軍手、マスク、簡易トイレ、カセットコンロ、鍋、ヘルメット予備等配付された物品	
	各自に配付	ヘルメット	
日光植物園	事務棟西の施錠出来る(倉庫)物置 (鍵は事務棟の中にある)	配布された物一応全部	事務室の担当
臨海実験所	実験研究棟1階事務室	災害用救急箱、懐中電灯、ライト用単1電池	事務室
	実験研究棟1階技官室	医薬品(殺菌消毒剤、火傷薬、整腸剤)、メガホン、フック、誘導灯、ローソク、チャッカマン、携帯用拡声器、腕章、軍手、塵埃マスク、タオル、レインコート、防水シート、のぼり、生活必需品(簡易トイレ、毛布、サバイバルブランケット、アルファーマ(3種類)、プラスチックスプーン、ミネラルウォーター、ハンディジャグ、卓上カセットコンロ、カセットコンロ用ボンベ、実用鍋、ビニール袋)	事務室
	宿泊棟特別室	手動式ラジオ	事務室
天文学教育研究センター	本館1階階段下倉庫	救助用具キット、救急箱、水、食料(アルファーマ、クラッカー)、毛布、固形燃料等	
木曽観測所	本館、階段下倉庫	水、食料(アルファーマ、クラッカー)、担架、ポリタンク、ヘルメット、軍手、マスク等	職員
	事務室	救急箱、大型拡声器、救助用具キット、誘導ライト、腕章	職員
	本館玄関	専攻・施設ののぼり	職員
	ドーム、玄関脇	手動式ラジオ、水、食料(アルファーマ、クラッカー)、毛布、固形燃料等、携帯用無線、担架、メガホン、救助用具キット、簡易トイレ、カセットコンロ、鍋等	職員
原子核科学研究センター	和光 実験準備棟 1階 階段下倉庫	災害用救急箱、簡易トイレ、毛布、アルファーマ、カセットコンロ鍋等、ミネラルウォーター、ゴミ袋70L、専攻・施設ののぼり、携帯型拡声器、ライト、手動式ラジオ、その他	常時開錠

[表 10] (遠隔地) 防災資機材・備蓄品保管場所

4.2 防災資機材・備蓄品一覧

[平成 30 年 4 月 1 日現在]

1 号館	2 号館	3 号館	4 号館 (ビッグ バン)	7 号館	(本館・西館・東館) 化学団地	植物園		臨海実験所	天セ		原子核科学 研究センター
						小石川	日光		三鷹	木曽	

食 品

1	アルファーマイ：白飯 (50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
2	アルファーマイ：赤飯 (50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
3	アルファーマイ：五目ごはん (50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
4	プラスチックスプーン (10本入り)	セット	155	17	17	2	5	49	3	3	3	4	3	4
5	クラッカー (1箱-24缶)	箱	82	20	20	4	4	21	0	0	0	0	0	0
6	ミネラルウォーター：500ml (1箱-24本)	箱	198	51	45	5	8	52	6	6	6	5	5	6
7	ハンディジャグ (5L)	個	5	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1	1
8	卓上カセットコンロ	台	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
9	カセットコンロ用ボンベ (1パック×3本)	パック	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
10	実用鍋	個	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
11	紙コップ (1セット-100個)	セット	15	5	5	0	2	5	1	2	1	1	2	1
12	コップヘル	セット	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	食事セット (ミニトレイ、コップ、スプーン等)	セット	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	まな板 & 包丁セット	セット	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	クイックコンロ	個	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	プラスチックボウル (5個入)	セット	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

防 寒 具

17	毛布	枚	49	20	20	1	10	19	10	10	10	10	10	10
18	サバイバルブランケット	枚	150	50	50	2	30	48	30	30	30	30	30	30
19	固形燃料 (缶)	缶	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ミニ固形燃料 (18個入)	セット	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	ロウペレット (50g)	箱	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

情 報 機 器

22	携帯用無線	台	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	携帯用拡声器	台	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
24	手動式ラジオ	台	7	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1	1
25	大型拡声器	個	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[表 11] 食品・防寒具・情報機器

1号館	2号館	3号館	4号館 (ビッグバン)	7号館	(本館・西館・東館) 化学回地	植物園 小石川 日光	臨海実験所	天セ 三鷹 木曽	原子核科学 研究センター
-----	-----	-----	----------------	-----	--------------------	------------------	-------	----------------	-----------------

照 明

26	強力ライト／懐中電灯	本	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
	ライト用単1電池(4本入)	セット	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
27	ローソク(6個入) ※9時間	セット	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
28	チャッカマン	個	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
29	安全キャンドル	個	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

救 命 救 急

30	担架	台	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0
31	救助用具セット(バール、ジャッキ、ノコギリ、ロープ、大型ハンマー、スコップ、つるはし等)	セット	2	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0
32	災害用救急箱(20人用) ※包帯、ガーゼ、三角巾、絆創膏、体温計、ハサミ、ピンセット等	セット	5	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
33	殺菌消毒剤 500ml	本	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
34	火傷薬	個	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
35	整腸剤	個	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
36	ジャッキ	台	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
37	タオル(20枚入り)	セット	5	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1

防 災 用 資 機 材

38	専攻、施設毎ののぼり(集合時の目印)		22枚(専攻、施設、本部)										
	のぼり	枚											
	のぼり用ボール	本											
	のぼり台	台											
39	ヘルメット	個	個人に配付済										
40	リヤカー	台	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
41	メガホン ※黄色	個	65	22	12	1	8	26	10	10	10	5	5
42	誘導灯	本	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
43	腕章	個	28	10	10	2	10	10	10	10	10	10	10
44	軍手(12双組)	セット	60	15	15	1	5	14	5	5	5	5	5
45	塵埃マスク(1箱-50枚)	箱	15	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
46	レインコート	枚	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
47	防水シート	枚	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
48	簡易トイレ(20枚入り)	セット	220	52	48	3	16	57	16	16	16	16	16
49	生理用ナプキン(30枚入り)	セット	50	16	10	2	2	10	2	2	2	1	2
50	電動ドラム(屋内型)工事用延長コード	式	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	ガスパワー発電機	台	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	発電機用カセットガス(3本入り)	セット	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
53	ビニール袋(70L-1ケース)	箱	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
54	ポリタンク	個	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[表 12] 照明・救命救急・防災用資機材

4.3 AED 設置場所

[平成 30 年 4 月 1 日現在]



[図 13] AED 設置場所

5. 発災時の非常放送文例

5.1 地震発生時

(1) 発生直後

(例)「緊急地震速報発令、安全を確保してください。」(2回以上繰り返す)

There has just been an earthquake. Protect yourself in a safe place.

(2) 避難指示

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま地震が発生しました。ヘルメットを装着し、避難してください。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) An earthquake has just occurred.

Put on a helmet and evacuate via the nearest emergency stairs.

注意事項) 1号館西棟、中央棟間の連絡通路、全てのエレベーターの利用を禁ずる。

Never use the elevators or the inter-building bridges between Areas W and C of the Science Bldg.1

5.2 自動火災報知設備作動時

(1) 感知器作動後

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま○階△△で(火災報知器・非常ベル)が作動しました。詳細については改めてお知らせいたします。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) The fire alarm (The emergency bell) at room △△ on the ○th floor has just gone off. We will keep you informed about details.

(2) 避難指示

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま○階△△で火災が発生いたしました。階段を使って○○へ避難してください。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) A fire has just broken out at room △△ on the ○th floor. Evacuate to ○○ using the emergency stairs.

(3) 誤作動の連絡

(例)「先ほど○階△△で(火災報知器・非常ベル)が作動しましたが、調査の結果火災ではありませんでした。」(2回以上繰り返す)

The fire alarm (The emergency bell) at room △△ on the ○th floor that went off earlier turned out to be a false alarm.

6. 地震情報および災害用伝言ダイヤル

6.1 地震情報

- | | | |
|----------------------|--------|---|
| (1) 気象庁 | 地震情報 | http://www.jma.go.jp/jp/quake/ |
| | 東海地震情報 | http://www.jma.go.jp/jp/quake_tokai/ |
| | 津波予報 | http://www.jma.go.jp/jp/tsunami/ |
| (2) 東京大学地震研究所 | | http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html |
| (3) 防災科学技術研究所 Hi-net | | http://www.hinet.bosai.go.jp/ |

6.2 災害伝言用ダイヤル・伝言板の利用方法

6.2.1 NTT 災害用伝言ダイヤル（171）

災害発生時には NTT サービスが稼働する。家族や友人などが被災した場合、安否の確認や連絡などに活用できる。災害用伝言サービスの開始はテレビ・ラジオなどで通知される。

(1) 伝言の録音方法

171 ⇒ 1（暗証番号を利用する場合は3）⇒電話番号入力⇒ ガイダンス⇒ 録音（30 秒以内）

(2) 伝言の再生方法

171 ⇒ 2（暗証番号を利用する場合は4）1⇒電話番号入力（□□）□□□□－□□□□
⇒ ガイダンス⇒ 伝言の再生

災害用伝言ダイヤルページ <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

※ 録音された伝言は、被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができる。聞かれたくないメッセージを録音する場合、予め暗証番号を決めておく必要がある。

6.2.2 携帯電話災害用伝言板サービス

震度 6 弱以上の地震など大規模災害（台風や集中豪雨）が発生した場合、安否確認のためにメッセージを伝える電子掲示板のようなサービスを携帯電話各社が提供している。

主な基本機能（各社共通）

(1) 登録内容

「無事です」「自宅にいます」「被害があります」「避難所にいます」の中から選択。かつ、全角 100 文字までのコメントが入力可。

(2) 登録可能件数

10 件／電話番号

防災行動マニュアル

大規模災害発生時の初期活動と帰宅困難者対策

ver.20180817



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



東京大学 大学院
理学系研究科・理学部
SCHOOL OF SCIENCE, THE UNIVERSITY OF TOKYO

目 次

はじめに	3
0. 平時からの準備	
0.1 組織	3
0.2 個人	3
1. 災害の種類と初期行動	
1.1 地震	4
1.1.1 初期行動	4
1.1.2 避難	5
1.1.3 避難経路図	6
1.1.4 安否確認	7
1.1.5 避難解除	7
1.1.6 緊急地震速報	8
1.2 火災	9
1.2.1 初期行動	9
1.2.2 避難	9
1.2.3 安否確認	9
1.2.4 避難解除	10
2. 理学系災害対策本部と号館災害対策部	
2.1 組織図	10
2.2 理学系災害対策本部	11
2.2.1 初期対応から災害応急対応までの流れ	11
2.2.2 設置基準	11
2.2.3 設置場所	11
2.2.4 組織体制（任務内容）	12
2.2.5 災害時の連絡先	14

2.3 号館災害対策部	16
2.3.1 初期対応から災害応急対応までの流れ	16
2.3.2 設置基準	16
2.3.3 設置場所	16
2.3.4 組織体制（任務内容）	16
2.3.5 救出・救助活動に関わる災害救助用工具の活用法	18

3. 帰宅困難者対策

3.1 帰宅困難時の対応	19
--------------------	----

4. 防災資機材・備蓄品の保管場所及びAED設置場所

4.1 防災資機材・備蓄品の保管場所	20
4.2 防災資機材・備蓄品一覧	22
4.3 AED 設置場所	24

5. 発災時の非常放送文例

5.1 地震発生時	25
5.2 自動火災報知設備作動時	25

6. 地震情報および災害用伝言ダイヤル

6.1 地震情報	26
6.2 災害用伝言ダイヤル・伝言板の利用方法	26
6.2.1 NTT 災害用伝言ダイヤル（171）	26
6.2.2 携帯電話災害用伝言板サービス	26

増補記録：	平成 24 年 10 月 12 日	平成 24 年度版発行
	平成 25 年 5 月 17 日	平成 25 年度版改訂
	平成 26 年 4 月 8 日	平成 26 年度版改訂
	平成 27 年 4 月 22 日	平成 27 年度版改訂
	平成 28 年 5 月 12 日	平成 28 年度版改訂
	平成 29 年 4 月 1 日	平成 29 年度版改訂
	平成 30 年 4 月 1 日	平成 30 年度版改訂

参考資料：	東京大学の防災マニュアル 2017
	東京消防庁：「職場の地震対策」、各種防災ビデオ
	工学系研究科地震発生時行動マニュアル

はじめに

本マニュアルは「東京大学の防災マニュアル 2017」に基づき、理学系研究科・理学部及び素粒子物理国際研究センターにおける大規模災害発生時の初期対応および帰宅困難者対策に関する必要事項をまとめたものである。

0. 平時からの準備

大規模災害が発生した場合に、(人的・物的)被害を最小減に抑える「減災」を実現するためには、平時からの予防対策を整えておく必要がある。

0.1 組織

- (1) 建物毎(号館)に避難することを前提にしていることから、「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」を決めて、効率的な安全確保が行えるようにする。
- (2) 「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」については、各々代行者を複数決定し、その代行順位、業務等を併せて決める。
- (3) 複数専攻で利用する建物(雑居ビル)にあつては、専攻間で調整の上、「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」及び建物利用者に周知すべき情報を決める。
- (4) 指定避難場所(一次、セーフティエリア)の確認、講義室・研究室等への掲示、図面表示、標識を整備する。
- (5) 危険物(放射線、化学物質、病原微生物等)対応者を明確化する。
- (6) 負傷者受け入れ場所及び救助用具等の保管場所の整備をする。
- (7) 日常から講義室、演習室、研究室、事務室等々における什器等の固定及び荷物の整理整頓をする。
- (8) 災害発生時、初期対応の任務分担を定めておく。
- (9) 「号館担当者(号館長)」は、建物に所属する構成員の最新名簿を準備しておく。

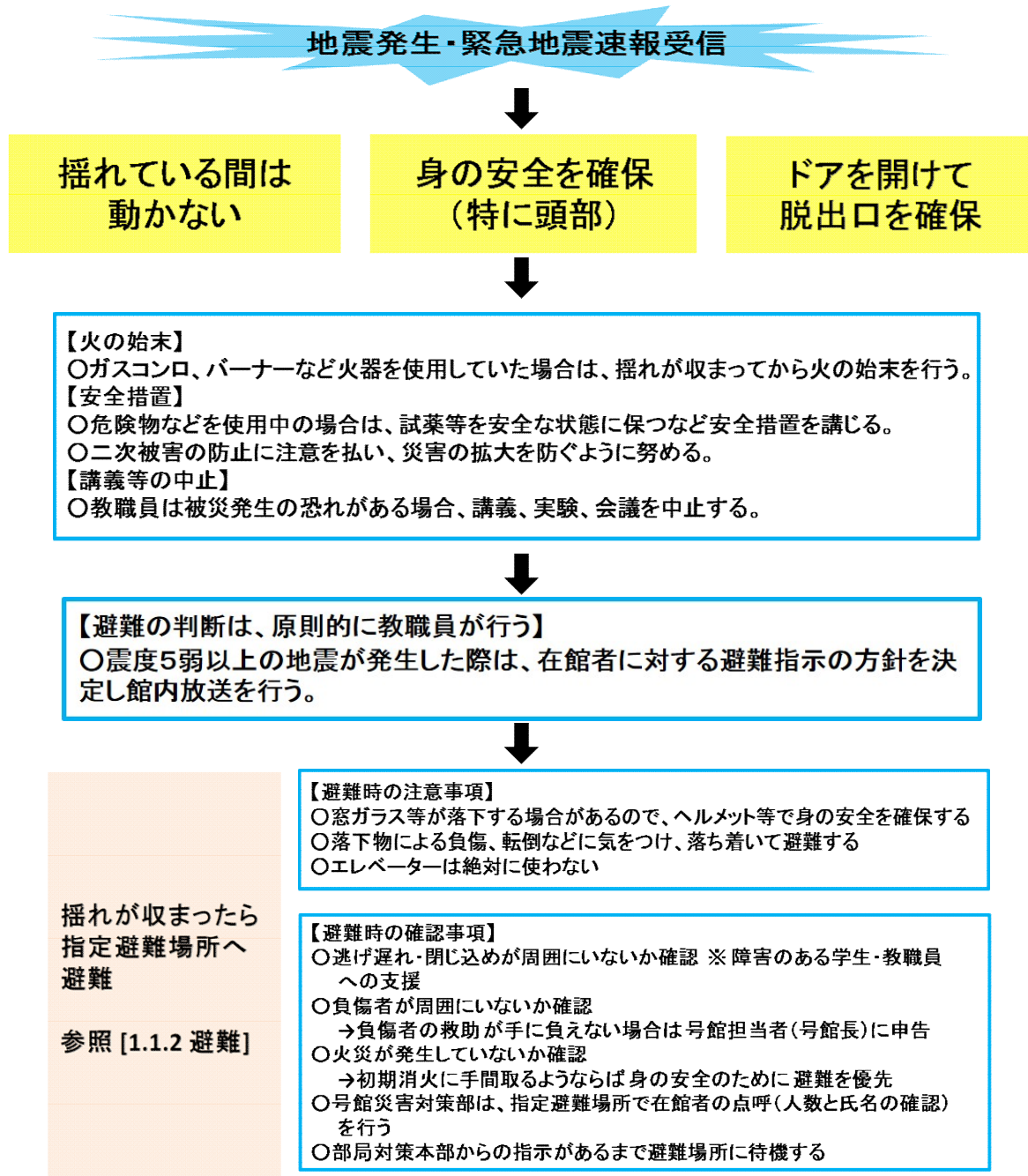
0.2 個人

- (1) 「号館担当者(号館長)および階別担当者」や指定された避難場所を把握しておく。
- (2) 実験室の避難路を確保する。避難路には阻害するものを置かない。
- (3) 消火器、消防用設備の設置場所や建物内避難路を確認しておく。
- (4) 危険物(放射線、化学物質、高圧ガス、病原微生物等)対応者を把握しておく。
- (5) 日常から身の回りおよび研究室における什器等の固定及び荷物の整理整頓をする。
- (6) 不要な溶媒や試薬、既に使用不能となっている機器、不要な書類は廃棄する。
- (7) 研究室スタッフ及び家族との安否確認の方法および連絡手段を複数準備しておく。

1. 災害の準備と初期活動

1.1 地震

1.1.1 初期行動



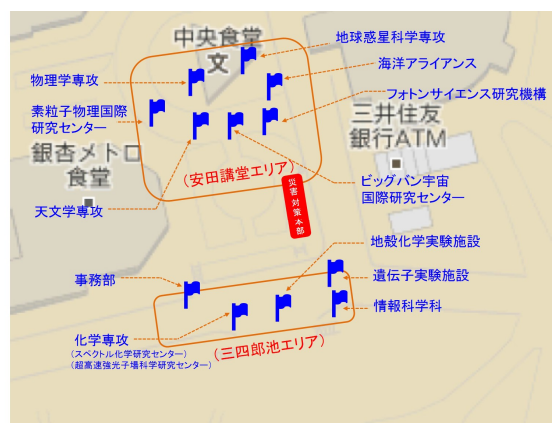
〔図 1〕 地震発生時の初期行動

1.1.2 避難

地震発生時には、揺れが収まるまで安全確保に努め、また、建物の構造や階によって揺れの程度が異なることから、建物外に避難するかどうかを教職員が判断し、指定された避難場所に避難する。危険を感じれば指示を待つ必要は無い。

(1) 理学部 1 号館・4 号館・7 号館・化学館・通信機械室

避難先：安田講堂エリア・三四郎池エリア



〔図 2〕 指定避難場所（安田講堂・三四郎池）
注）避難先では必要に応じて交通整理を行う。

〔図 3〕 専攻・施設別避難場所

(2) 理学部 2 号館

避難先：理学部 2 号館玄関前（一次避難場所）、懐徳館庭園（二次避難場所）

※火災発生や建物倒壊等の恐れなど二次災害が想定される場合は、二次避難場所へ移動し、理学系災害対策本部へ報告を行う。



〔図 4〕 2 号館玄関前一次避難場所
注）避難先では必要に応じて交通整理を行う。



〔図 5〕 2 号館二次避難場所

(3) 理学部 3 号館

避難先：理学部 3 号館玄関前（一次避難場所）、安田講堂エリア（二次避難場所）

※火災発生や建物倒壊等の恐れなど二次災害が想定される場合は、二次避難場所へ移動し、理学系災害対策本部へ報告を行う。



[図 6] 3 号館玄関前一次避難場所

注) 避難先では必要に応じて交通整理を行う。

1.1.3 避難経路図



〔図 7〕 屋外避難経路図（安田講堂エリア・三四郎池エリア）

[1 号館屋内避難経路]

- ・棟間ブリッジ（2階以上）を使用せず、中央棟・西棟それぞれの最寄階段で避難すること。
特別な指示等があった場合は、その指示に従う。
- ・1号館西棟と中央棟の間の広場（ガラス屋根に覆われた部分）は使用しないこと。

1.1.4 安否確認

- (1) 号館担当者の指示に従う。
- (2) 原則、安否確認は専攻ごとに取りまとめ号館長に報告する。
- (3) 教職員は、速やかに同じ研究室等の教職員、学生の安否を確認する。
- (4) 学生は、大きな揺れがあった場合、研究室等の教職員に安否を連絡する。
- (5) 学生は安否を連絡後、避難先にて待機する。連絡した避難先の変更や友人の安否などの情報が入ったときは、あらためて研究室などの教職員に連絡する。
- (6) 勝手にキャンパス内を移動しない。

1.1.5 避難解除

避難解除（建物内に戻る）は、学内応急危険度判定士の判断に従う。

※応急危険度判定士は、被災建築物の倒壊の危険性及び落下物の危険性等を調査し、当該建築物及び敷地又は周辺建築物の当面の使用可否の判断を行う。

<応急危険度判定活動>

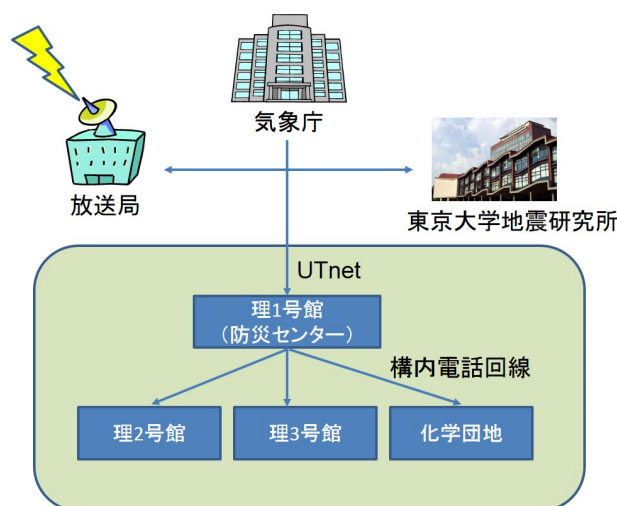


資格を持った応急危険度判定士により、建物の余震に対する安全性の評価と結果の表示が行われる。

応急危険度判定結果	応急危険度判定結果	応急危険度判定結果
危険 UNSAFE	要注意 LIMITED ENTRY	調査済 INSPECTED
※この建築物に立ち入ることは危険です。歩行者や車両は周囲に回避し、応急避難を待つべきです。	※この建築物に立ち入る場合は注意して下さい。歩行者は周囲に回避し、車両は注意して下さい。	※この建築物の安全を確認する必要があります。歩行者は注意して下さい。
建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関	建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関	建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関

1.1.6 緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生及びその規模を素早く感知し、地震による強い揺れが始まる数秒から数十秒前に強い揺れが来ることを知らせるものです。理学系研究科では緊急地震速報端末本体を1号館西棟防災センターに設置し、ここを拠点として各号館の館内放送に配信します。緊急地震速報が放送された際は、「1.1.1 初期行動」に挙げる行動をとり、身の安全を図ること。



〔図 8〕 緊急地震速報の伝達経路

- (1) 通常の放送開始条件（受信地点で、強い揺れが予測されるときのみ放送開始）
受信地点の推定計測震度が 4.0（震度 4 の強）以上で放送が開始されます。
- (2) 巨大地震の放送開始条件（巨大地震の時は、やや低い予測震度でも放送開始）
緊急地震速報（警報）が出された地震で、震源のマグニチュードが M7.9 以上となった場合は、受信地点の推定計測震度が 3.0（震度 3 の強）以上で放送が開始されます。

〔緊急地震速報放送内容〕

（例）「NHK 音」→「緊急地震速報（Earthquake early warning）」→「大地震です」→「予測震度は 6 弱」→「安全な場所で身を守ってください (Protect yourself in a safe place)」→「あと 5 秒 (In 5 seconds)」→「安全な場所で身を守ってください (Protect yourself in a safe place)」→「揺れが収まるまで、安全な場所で身を守ってください (Protect yourself in a safe place until the shaking stops)」

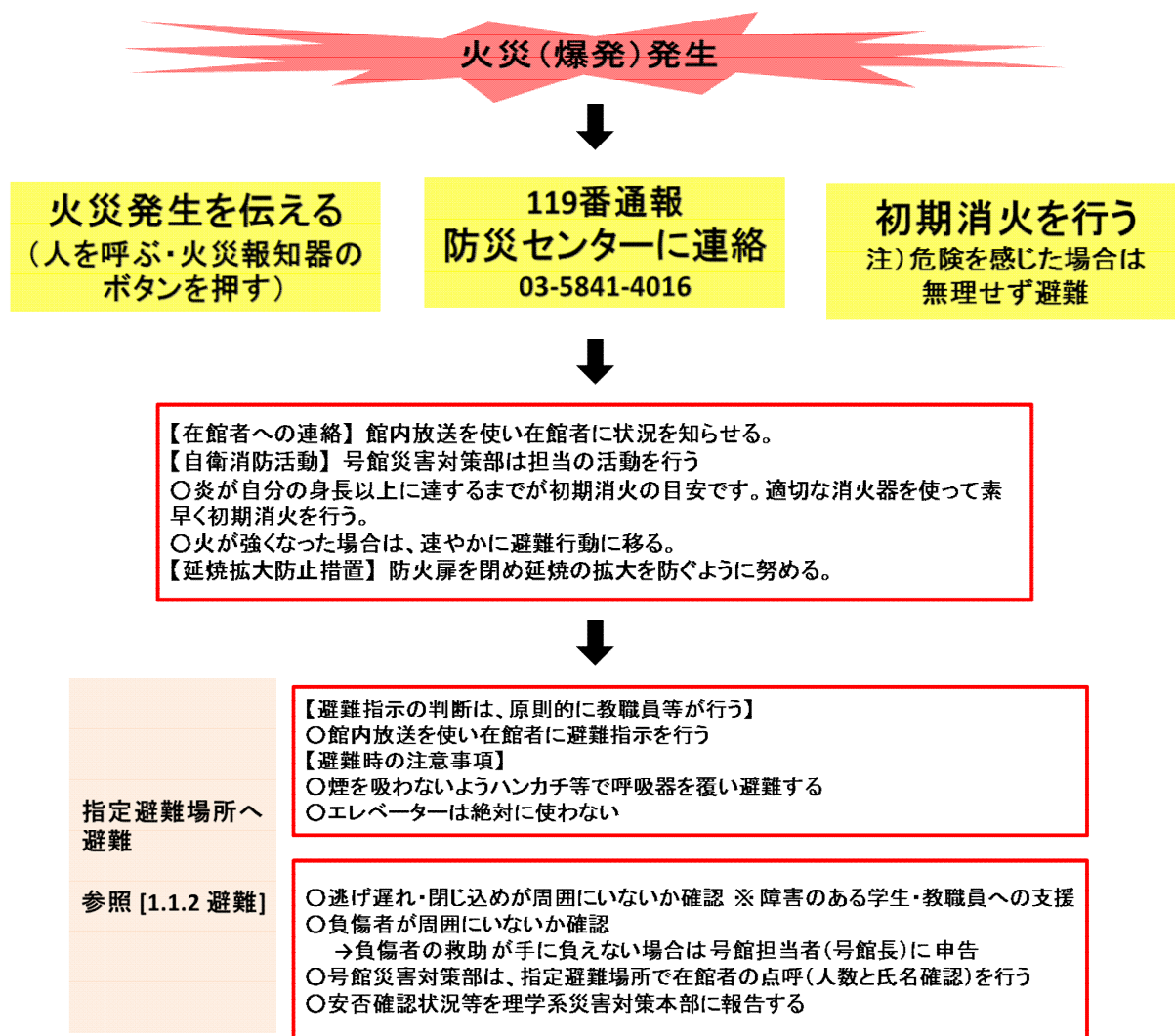
【緊急地震速報の注意点】

- 直下型地震などの場合は、震源近くでは緊急地震速報の発信が間に合わない場合がある。
- ごく短時間のデータだけを使った速報であることから、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もある。

1.2 火災

1.2.1 初期行動

火災発生時においては、まずは大声で「火事だ」と周囲に知らせ、近傍の非常ベルを鳴らし 119 番通報を行うと同時に防災センターに連絡する。



[図 9] 火災発生時の初期行動

1.2.2 避難

館内放送を使い在館者全員および隣接する建物に一斉避難を指示する。避難場所は、本マニュアル「1.1.2 避難」を参照のこと。

1.2.3 安否確認

(1) 建物（号館）担当者の指示に従う。

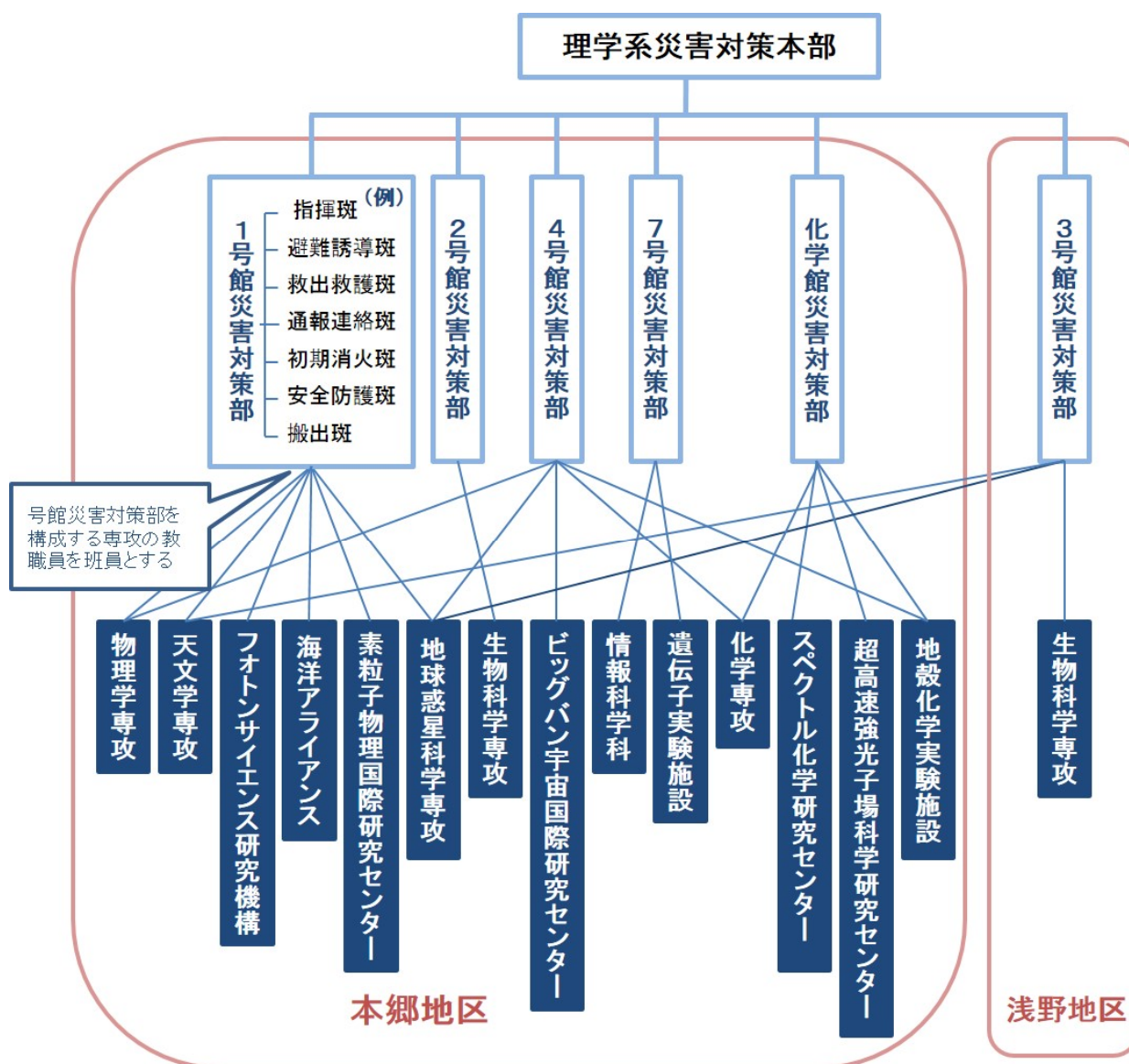
- (2) 原則、安否確認は号館（又は専攻）研究室単位で行う。
 (3) 教職員は、速やかに同じ研究室等の教職員、学生の安否を確認する。

1.2.4 避難解除

避難解除（建物内に戻る）は、消防署と相談した上で号館災害対策部の長が判断する。

2. 理学系災害対策本部と号館災害対策部

2.1 組織図



[図 10] 組織図

2.2 理学系災害対策本部

2.2.1 初期対応から災害応急対応までの流れ

大規模地震等が発生した際は、迅速な初期活動を取り、理学系災害対策本部を設置するとともに初期対応を開始する。その後、危険物・RI・高圧ガス及び施設・設備・ライフライン等の被害状況を収集し、復旧作業に向けた災害応急対応を行う。

2.2.2 設置基準

大規模災害発生時又は防災上特に必要があると認めるとき、あるいは「東京大学災害対策本部長」（総長）から指示があった時は「理学系災害対策本部」を設置する。この「理学系災害対策本部」は、「東京大学災害対策本部」に準じた任務、組織、運営等により編成されるものであり、「消防法施行規則」の規定による「自衛消防のための組織」によって充てることができる。また、夜間・休日を含めた参集基準については次の通りである。

災害種類		状況	場所	参集基準
地震	発生後	震度 6 以上	東京 2 3 区	自動参集
		震度 5 強		適宜判断（スタンバイ→参集）
		震度 5 弱以下		適宜判断
	予報	警戒宣言	東海地震	適宜判断（スタンバイ→参集）

〔表 1〕 理学系災害対策本部参集基準

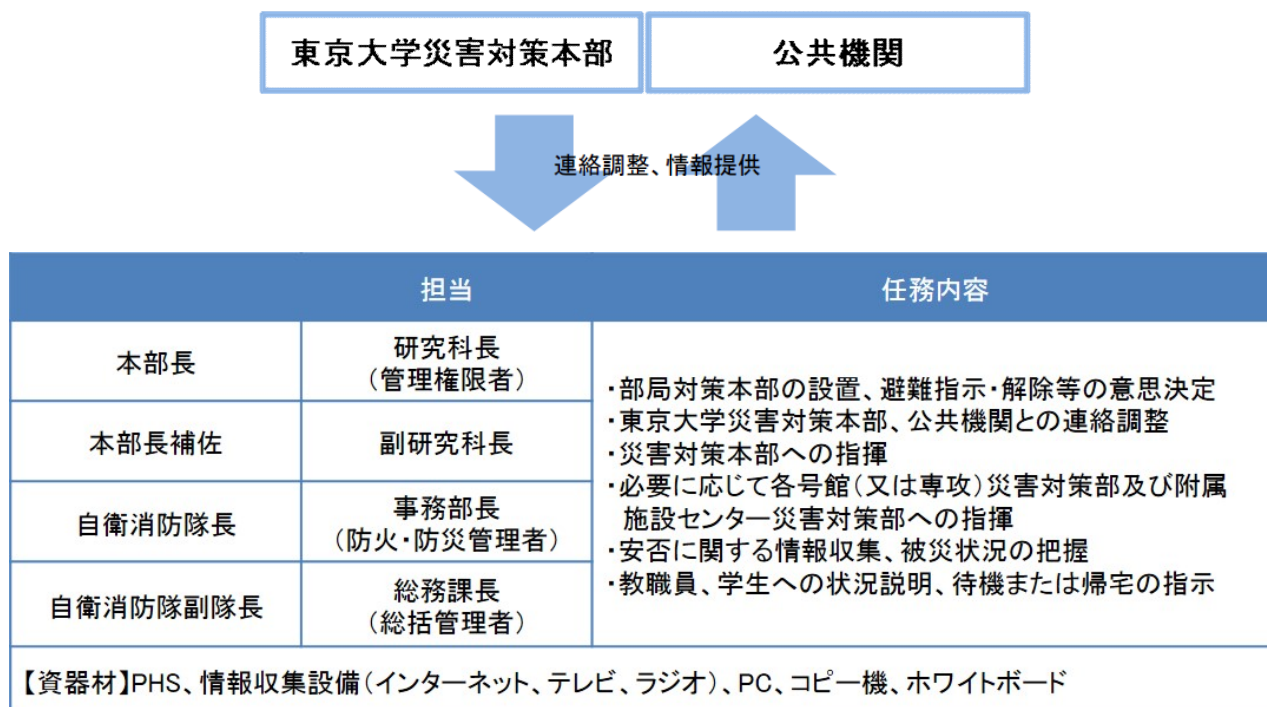
2.2.3 設置場所

初期段階では①、被災状況によっては②に設営する。

- (1) 理学系研究科 1 号館西棟 2 階 205 号室（会議室）
- (2) 安田講堂エリア及び三四郎池エリア（セーフティエリア）

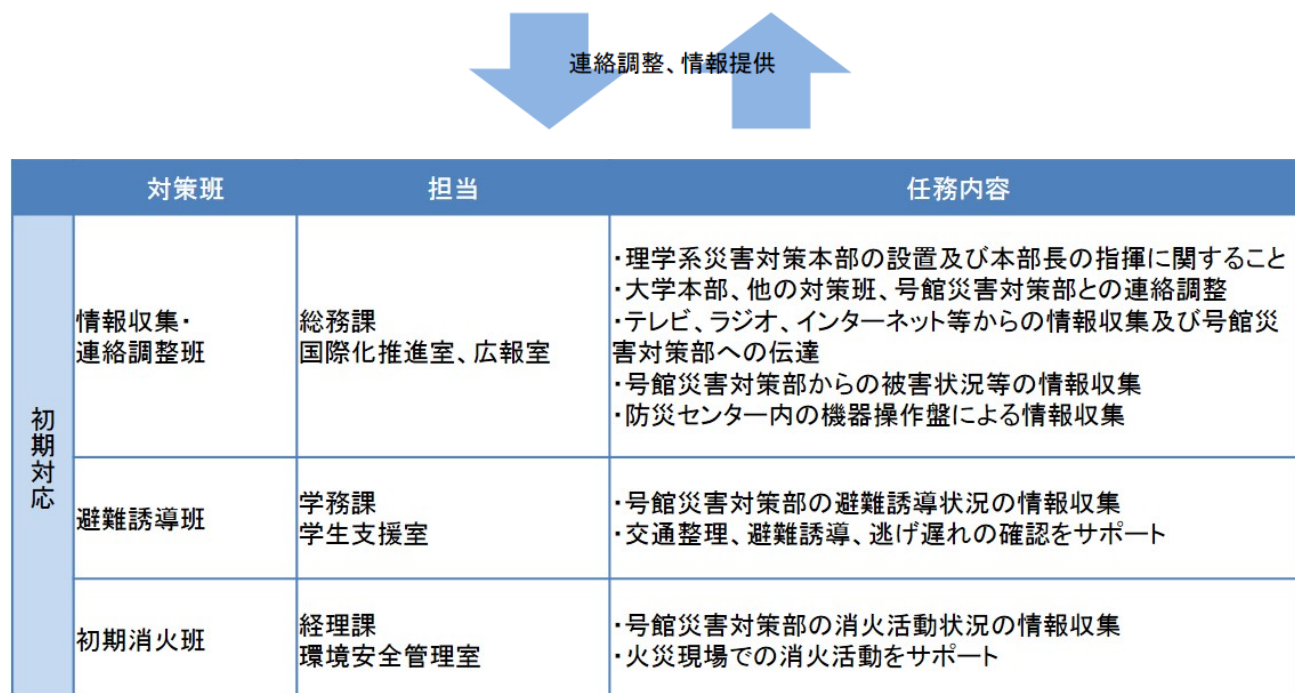
2.2.4 組織体制（任務内容）

「理学系災害対策本部長」（研究科長）の指示に基づき、「理学系災害対策本部」は以下のよう
な組織体制をとり担当の任務を総括する。

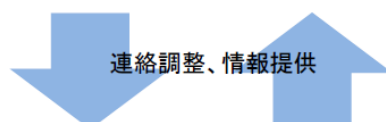


※研究科長不在時は、副研究科長が本部長の任務を代行する。

事務部長は防災管理者として本部長を補佐し、不在時は総務課長が任務を代行する。



初期対応	応急救護班	総務課 国際化推進室、広報室	<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院、保険センターのほか診察可能な医療機関を確認及び情報収集 ・救急隊との連携、情報の提供 ・負傷者応急手当
	【資器材】(総括班)PHS、建築平面図、通報連絡先一覧、ラジオ、パソコン (避難誘導班)PHS、建築平面図、誘導灯等 (初期消火班)PHS、建築平面図、消火器等 (救護班)応急医薬品、医療機関連絡先		
災害応急対応	安全防護班	経理課 環境安全管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備、ライフラインの被害状況の情報収集、復旧 ・危険物及び放射線物質の被害状況の情報収集、復旧 ・建物構造、施設設備、非常用電源、館内放送設備の整備 ・二次災害の恐れのある区域への立入制限
	物資対策班 ※地震等が収まった後の対応	経理課 情報システムチーム	・災害救援物資(防災用機材、備蓄品、医薬品)の調達と分配
	学生対策班 ※地震等が収まった後の対応	学務課 学生支援室	・学生の安否確認の情報収集等
	【資器材】(安全防護班)建築平面図、マスターキー、エレベーターの鍵、照明器具、防水シート、ロープ、各種標識、カメラ等 (物資対策班)災害救援物資設置及び保管場所の鍵、台車等 (学生班)学籍名簿		



号館災害対策部

〔図 11〕 理学系災害対策本部の任務内容（勤務時間内）

事項	任務内容
出勤	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6弱以上の地震が発生した場合は、家族や家屋等の安全を確認後、交通手段等の状況を判断して可能な限り出勤する。 ・震度4以上～震度5強の地震では、部局長からの指示があれば出勤する。
避難、安否確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業場に残っている対策本部員は研究科長と連絡をとり在館者に対する避難指示の方針を決定する。 ・館内放送を用いて在館者に向けて避難指示を行う。
被害状況確認	<ul style="list-style-type: none"> ・調査可能な範囲において施設、設備、ライフラインなどの物的被害状況を確認する。また、二次災害が発生する可能性がある場所には立入を禁止する。 ・調査可能な範囲において危険物及び放射性物質の被害状況を確認し災害の拡大を防止する。

〔表 2〕 勤務時間外における出勤判断基準と任務内容

2.2.5 災害時の連絡先

(1) 理学系災害対策本部連絡先

部署名	連絡事由	電話番号
理学系災害対策本部 1号館西棟205室	理学系災害対策本部との連絡調整	内線 28345
研究科長	理学系災害対策本部長	内線 24000 内線 24020
事務部長	自衛消防隊長（防火・防災管理者）	内線 28300
総務課長	自衛消防隊副隊長（統括管理者）	内線 24002 (PHS)
総務チーム総務担当	安否確認に関する情報連絡、連絡調整	内線 24005 内線 20274 (PHS)
経理チーム管理業務担当	施設、設備、ライフラインの被害に関して	内線 28348 内線 24518
経理チーム調達業務担当	防災用機材・医薬品・備蓄品などに関して	内線 24239
環境安全管理室	危険物及び放射性物質の被害に関して	内線 28868 内線 20640
防災センター	防災設備、復旧作業などに関して	内線 24016 内線 28299

[表 3] 部局災害対策本部連絡先

(2) 号館災害対策部組織と連絡先

号館	専攻	連絡先	号館	専攻	連絡先
1号館	物理学専攻	内線 24050	3号館	地球惑星科学専攻	内線 21978
	地球惑星科学専攻	内線 21978	4号館	ビッグバン宇宙国際研究センター	内線 24169
	天文学専攻	内線 24251	7号館	情報科学科	内線 24111
	素粒子物理国際研究センター	内線 24231		遺伝子実験施設	内線 23034
2号館	生物科学専攻	内線 24451	化学館	化学専攻	内線 24321
3号館	生物科学専攻	内線 24403		地殻化学実験施設	内線 24622
	天文学専攻	内線 24251		超高速強光子場研究センター	内線 24622

[表 4] 号館災害対策部連絡先

(3) 東京大学災害対策本部関連連絡先

東京大学災害対策本部代表番号 内線22119（外線:03-5841-2119）

部署名	連絡事由	電話番号
災害対策本部（1）山上会館	大学本部との連絡調整	03-3818-3008
災害対策本部（2）本部 12 階	大学本部との連絡調整	内線 82023 内線 82024
環境安全本部環境安全課	被害状況の報告	内線 21051 (24 時間)
安田講堂警備室	人的被害状況の報告	内線 119 内線 24919
施設・資産系総務チーム	物的被害状況の報告	内線 22203
環境安全研究センター	化学物質漏洩等による事故発生	内線 22972
アイソトープ総合センター	放射性同位元素による事故発生	内線 22895 内線 22870
低温センター	液体窒素、ヘリウム等の漏洩事故、配管損傷	内線 22852
医学部附属病院救急	負傷者の受入確認、搬送先	内線 34100 内線 35199
保健センター	負傷者の応急手当、搬送先	内線 22572

[表 5] 東京大学災害対策本部連絡先

2.3 号館災害対策部

2.3.1 初期対応から災害応急対応までの流れ

大規模地震等が発生した際は、迅速な初期活動を取り、号館災害対策部を設置するとともに初期対応を開始する。その後、危険物・RI・高圧ガス及び施設・設備・ライフライン等の被害状況を収集し復旧作業に向けた災害応急対応を行う。

2.3.2 設置基準

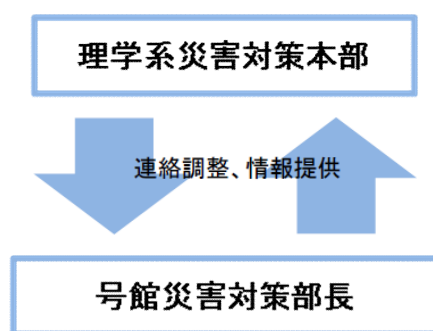
大規模災害発生時又は防災上特に必要があると認めるとき、あるいは「理学系災害対策本部」（研究科長）から指示があった時は「号館災害対策部」を設置する。

2.3.3 設置場所

指定された避難場所または被災状況を確認・集約するに適した場所（火災報知器受信盤設置場所・会議室など）に設置する。

2.3.4 組織体制（任務内容）

「号館災害対策部」は、号館に所属する教職員を構成員とし下図のような組織体制を取り号館長の指示に基づき、各班が災害対策任務を遂行する。また、「消防法施行規則」の規定による「自衛消防のための組織」によって充てることができる。号館災害対策部長の下に対策班を編成し任務を定め、災害の拡大を防止する。



※対策部設置、避難指示の判断、部局対策本部との連絡調整

※安否確認を取りまとめた結果を理学系災害対策本部に報告する。

※被災状況を把握し理学系災害対策本部に報告する。

※号館災害対策部長不在時の代行を決めておく。（班長・副班長の順）

対策班		主な任務内容
初期対応	指揮班	・号館(又は専攻)災害対策部長の指揮に従い班の活動を総括、情報収集・伝達、他の班との連絡調整
	避難誘導班	・避難者の誘導、担当の教職員・学生の安否を確認、必要に応じて避難器具の操作
	救出救護班	・閉じ込め、逃げ遅れ、負傷者の有無を調査、負傷者応急手当、診療可能な医療機関を確認
	通報連絡班	・消防機関、防災センターなど関係部署への通報連絡
	初期消火班	・消火器・消火設備による初期消火活動
【資器材】(指揮班)PHS、トランシーバー、建築平面図、構成員名簿(避難誘導班)マスターキー、名簿、照明器具(救出救護班)応急医薬品(通報連絡班)通報連絡先一覧(初期消火班)消火器具		

災害応急対応	安全防護班	・立入禁止区域への立入制限、物的被害・危険物及び放射性物質の被害状況を確認
	搬出班	・重要書類、非常持ち出し袋の搬出、防災用機材・備蓄品・医薬品の調達
	【資器材】(防護安全班)建築関係図等、防火シャッターやエレベーター等の鍵、ロープ(重要物搬出班)防水シート	

※班編成と任務内容は各号館の実情に合わせた内容とする。

[図 12] 号館災害対策班の主な任務内容

火災が発生した際は、号館自衛消防隊は消防署が到着するまでの間に、自衛消防隊長の下、「指揮班」、「通報連絡班」、「初期消火班」、「避難誘導班」、「救出救護班」等を編成し、「誰が何をどのように行うか」を明確にすることで迅速かつ確実に災害の拡大防止を実行する。自衛消防隊の活動は火災等を知った時点から始まり、消防署が現場に到着した時点で引き継ぐことになる。

事項	任務内容
出勤	・震度6弱以上の地震が発生した場合は、家族や家屋等の安全を確認後、交通手段等の状況を判断して可能な限り出勤する。 ・震度4以上～震度5強の地震では、号館長(又は専攻長)からの指示があれば出勤する。
避難、安否確認	・事業場に残っている教職員・学生は指定された避難場所に集合し、教職員の中から指揮者を決定してその指揮の下で安否確認を行う。 ・館内放送を用いて在館者に向けて避難指示を行う。
被害状況確認	・調査可能な範囲において施設、設備、ライフラインなどの物的被害状況を確認する。また、二次災害が発生する可能性がある場所には立入を禁止する。 ・調査可能な範囲において危険物及び放射性物質の被害状況を確認し災害の拡大を防止する。

[表 6] 号館災害対策班の主な任務内容(勤務時間外)

2.3.5 救出・救助活動に関わる災害救助用工具の活用法

(1) バール・ジャッキの活用法（倒壊物からの救出方法）

地震によって転倒した物の下敷きになった人を救出する時に活用する。活動を行う際は、二次災害防止のためにヘルメット・手袋を着用すること。

状況	バール・ジャッキの活用法
倒壊物と地面との隙間が広い場合	ジャッキを活用し隙間を広げる
倒壊物と地面との隙間が狭い場合	①倒壊物の下にバールを差し込み、端を持ち上げる ②ブロック等で支点を作りバールの端を押し下げる 上記作業で生じた隙間にジャッキを入れ倒壊物を持ち上げる

〔表 7〕 バール・ジャッキの活用法

(2) 担架の活用法（傷病者の搬送方法）

歩行が困難な負傷者や、急病人などを搬送する際に活用する。搬送の際は、けが人や急病人といった傷病者に不安や苦痛を与えることなく安全に運ぶことを心掛ける。

状況	担架の活用法
乗せる前の準備	毛布による保温の準備を行う
乗せる	頭部が動かないように注意して抱き上げ、担架を傷病者の下に移動させる
乗せた後	傷病者をバンドあるいは三角巾で固定する
移動する	平坦地 傷病者の足側から移動する。搬送中は担架を常に水平にし、傷病者の頭側に位置したものは容態の変化に気を付ける
	階段・斜面 傷病者の頭部を高い方へ向ける。昇る場合は頭側から進み、降りる場合は足側から進む。その際、担架は常に水平を保つよう注意する

〔表 8〕 担架の活用法

搬送には状況に応じて、車椅子や台車なども活用できる。傷病者の状態を悪化させないように注意して搬送するとともに、できるだけ早く医師の診断を受けさせるように心掛ける。

3. 帰宅困難者対策

3.1 帰宅困難時の対応

地震発生直後の一斉帰宅行動は、多数の帰宅困難者の発生による交通機関の混乱や二次災害につながる可能性が考えられる。むやみに移動を開始せず、下記判断基準を参考に帰宅の可否を判断する。

(1) 帰宅可否の判断基準 （参考）「職場の地震対策」東京消防庁編

[帰宅を控えた方がよいと思われる事項]

1. 移動距離が 20km 以上ある。
2. 自宅に到着する予想時間が、日没の 1 時間前より後になる。
3. 他の同一方向に帰宅する者がおらず、単独で帰宅することになる。
4. 靴、飲料水・食料その他の個人の装備等が不十分である。

[帰宅を開始する前に確認した方がよい事項]

1. 天候等の条件
2. 帰宅ルート（通行可否を含む）及び帰宅予想時間
3. 延焼火災、建物倒壊、液状化の災害の情報が帰宅ルートと重なっていないか
4. 交通規制の有無や代替ルート確保の可否
5. 路上に大量の帰宅困難者があふれていないか

(2) 残留者への対応

1. 帰宅困難者にとって必要な情報を定期的に提供する。

例) 発災後の震源地、地震の規模、建物の安全性に関する情報、地域の災害状況、交通機関の運行情報、主要幹線道路の通行状況、使用できるトイレやエレベーター

2. 残留者を安全に保護できる待機場所を選定する。

建物の耐震化、オフィス家具類の転倒・落下、ガラスの飛散防止、備蓄倉庫の設置場所などを考慮し、待機人員が安全に滞在できる環境であること。

(3) 帰宅開始時の対応

1. 帰宅支援用の防災用品の支給・貸出
2. ヘルメット・非常用の飲料水・軍手・マスクなど

4. 防災資機材・備蓄品の保管場所及びAED設置場所

[平成 30 年 8 月 17 日現在]

4.1 防災資機材・備蓄品の保管場所

施設名	保管場所	主たる備蓄品	鍵の管理
1号館	1号館東棟1階174号室 (防災倉庫)	救助用具キット、救急箱、手動式ラジオ、水、食料(アルファーマイ、クラッカー)、毛布、固形燃料、軍手、マスク、簡易トイレ、カセットコンロ、ガスボンベ、鍋、ポリタンク、ヘルメット、生理用ナプキン、調理器具、飲料水ポリタンク、ポリ袋、紙コップなど	環境安全管理室 防災センター
	1号館西棟1階防災センター	携帯用無線、担架、大型拡声器、救助用具キット、専攻・施設ののぼり(一部除く)	24時間センター 職員常駐
	1号館西棟2階物理専攻長室隣室 (排気ファン室)	水、食料(アルファーマイ、クラッカー)	総務担当 防災センター
	1号館中央棟3階北側 (空調機械室)	水、食料(アルファーマイ、クラッカー)	総務担当 防災センター
	1号館環境安全管理室 (西棟103号室)	ライト、手動式ラジオ等	環境安全管理室 防災センター
2号館	1階男性休憩室(101号室)	食糧(クラッカー、アルファーマイ)、水、紙コップ、鍋等、毛布、手動式ラジオ、懐中電灯、ローソク、災害用救急箱、タオル、防水シート、ビニール袋、簡易トイレ、食糧(クラッカー)、水、紙コップ	生科総務 防災センター
3号館	5階の生物情報科学科の倉庫	食料、毛布、担架等(第2回配布分すべて)	生情事務 防災センター
	第1回配布分の水とビスケットは各研究室で保管。事務室と地惑分については生物科学専攻事務室で保管	第1回配布分の水とビスケット	各研究室 防災センター
4号館 (ビッグバン)	4号館6階1624号室倉庫		事務室 防災センター
7号館	7号館1階情報科学科事務室隣 防災物品入れ	情報科学科・遺伝子実験施設ののぼり、拡声器、救急箱、ライト、手動式ラジオ、レスキューセット	常時開錠
	7号館2階206号室	情報科学科・遺伝子実験施設用のその他の備蓄品	
化学館	化学本館中5階機械室	化学館への割り当て分すべて	事務室 防災センター

[表 9] (本郷・浅野地区) 防災資機材・備蓄品保管場所

施設名	保管場所	主たる備蓄品	鍵の管理
小石川植物園	事務室前室	救助用具キット、救急箱	事務室
	管理棟そばの施錠出来る(倉庫)物置	手動式ラジオ、水、食料、毛布、固形燃料、軍手、マスク、簡易トイレ、カセットコンロ、鍋、ヘルメット予備等配付された物品	
	各自に配付	ヘルメット	
日光植物園	事務棟西の施錠出来る(倉庫)物置 (鍵は事務棟の中にある)	配布された物一応全部	事務室の担当
臨海実験所	実験研究棟1階事務室	災害用救急箱、懐中電灯、ライト用単1電池	事務室
	実験研究棟1階技官室	医薬品(殺菌消毒剤、火傷薬、整腸剤)、メガホン、フック、誘導灯、ローソク、チャッカマン、携帯用拡声器、腕章、軍手、塵埃マスク、タオル、レインコート、防水シート、のぼり、生活必需品(簡易トイレ、毛布、サバイバルブランケット、アルファーマ(3種類)、プラスチックスプーン、ミネラルウォーター、ハンディジャグ、卓上カセットコンロ、カセットコンロ用ボンベ、実用鍋、ビニール袋)	事務室
	宿泊棟特別室	手動式ラジオ	事務室
天文学教育研究センター	本館1階階段下倉庫	救助用具キット、救急箱、水、食料(アルファーマ、クラッカー)、毛布、固形燃料等	
木曽観測所	本館、階段下倉庫	水、食料(アルファーマ、クラッカー)、担架、ポリタンク、ヘルメット、軍手、マスク等	職員
	事務室	救急箱、大型拡声器、救助用具キット、誘導ライト、腕章	職員
	本館玄関	専攻・施設ののぼり	職員
	ドーム、玄関脇	手動式ラジオ、水、食料(アルファーマ、クラッカー)、毛布、固形燃料等、携帯用無線、担架、メガホン、救助用具キット、簡易トイレ、カセットコンロ、鍋等	職員
原子核科学研究センター	和光 実験準備棟 1階 階段下倉庫	災害用救急箱、簡易トイレ、毛布、アルファーマ、カセットコンロ鍋等、ミネラルウォーター、ゴミ袋70L、専攻・施設ののぼり、携帯型拡声器、ライト、手動式ラジオ、その他	常時開錠

[表 10] (遠隔地) 防災資機材・備蓄品保管場所

4.2 防災資機材・備蓄品一覧

[平成 30 年 4 月 1 日現在]

1 号館	2 号館	3 号館	4 号館 (ビッグ バン)	7 号館	(本館・西館・東館) 化学団地	植物園		臨海実験所	天セ		原子核科学 研究センター
						小石川	日光		三鷹	木曽	

食 品

1	アルファー米:白飯(50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
2	アルファー米:赤飯(50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
3	アルファー米:五目ごはん(50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
4	プラスチックスプーン(10本入り)	セット	155	17	17	2	5	49	3	3	3	4	3	4
5	クラッカー (1箱-24缶)	箱	82	20	20	4	4	21	0	0	0	0	0	0
6	ミネラルウォーター:500ml (1箱-24本)	箱	198	51	45	5	8	52	6	6	6	5	5	6
7	ハンディジャグ(5L)	個	5	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1	1
8	卓上カセットコンロ	台	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
9	カセットコンロ用ボンベ(1パック×3本)	パック	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
10	実用鍋	個	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
11	紙コップ (1セット-100個)	セット	15	5	5	0	2	5	1	2	1	1	2	1
12	コッヘル	セット	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	食事セット(ミニトレイ、コップ、スプーン等)	セット	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	まな板 & 包丁セット	セット	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	クイックコンロ	個	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	プラスチックボウル(5個入)	セット	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

防 寒 具

17	毛布	枚	49	20	20	1	10	19	10	10	10	10	10	10
18	サバイバルブランケット	枚	150	50	50	2	30	48	30	30	30	30	30	30
19	固形燃料(缶)	缶	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ミニ固形燃料(18個入)	セット	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	ロウペレット(50g)	箱	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

情 報 機 器

22	携帯用無線	台	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	携帯用拡声器	台	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
24	手動式ラジオ	台	7	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1	1
25	大型拡声器	個	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[表 11] 食品・防寒具・情報機器

1号館	2号館	3号館	4号館 (ビッグバン)	7号館	(本館・西館・東館) 化学回地	植物園 小石川 日光	臨海実験所	天セ 三鷹 木曽	原子核科学 研究センター
-----	-----	-----	----------------	-----	--------------------	------------------	-------	----------------	-----------------

照 明

26	強力ライト／懐中電灯	本	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
	ライト用単1電池(4本入)	セット	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
27	ローソク(6個入) ※9時間	セット	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
28	チャッカマン	個	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
29	安全キャンドル	個	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

救 命 救 急

30	担架	台	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0
31	救助用具セット(パール、ジャッキ、ノコギリ、ロープ、大型ハンマー、スコップ、つるはし等)	セット	2	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0
32	災害用救急箱(20人用) ※包帯、ガーゼ、三角巾、絆創膏、体温計、ハサミ、ピンセット等	セット	5	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
33	殺菌消毒剤 500ml	本	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
34	火傷薬	個	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
35	整腸剤	個	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
36	ジャッキ	台	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
37	タオル(20枚入り)	セット	5	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1

防 災 用 資 機 材

38	専攻、施設毎ののぼり(集合時の目印)		22枚(専攻、施設、本部)										
	のぼり	枚											
	のぼり用ボール	本											
	のぼり台	台											
39	ヘルメット	個	個人に配付済										
40	リヤカー	台	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
41	メガホン ※黄色	個	65	22	12	1	8	26	10	10	10	5	5
42	誘導灯	本	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
43	腕章	個	28	10	10	2	10	10	10	10	10	10	10
44	軍手(12双組)	セット	60	15	15	1	5	14	5	5	5	5	5
45	塵埃マスク(1箱-50枚)	箱	15	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
46	レインコート	枚	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
47	防水シート	枚	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
48	簡易トイレ(20枚入り)	セット	220	52	48	3	16	57	16	16	16	16	16
49	生理用ナプキン(30枚入り)	セット	50	16	10	2	2	10	2	2	2	1	2
50	電動ドラム(屋内型)工事用延長コード	式	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	ガスパワー発電機	台	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	発電機用カセットガス(3本入り)	セット	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
53	ビニール袋(70L-1ケース)	箱	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
54	ポリタンク	個	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[表 12] 照明・救命救急・防災用資機材

4.3 AED 設置場所

[平成 30 年 4 月 1 日現在]



[図 13] AED 設置場所

5. 発災時の非常放送文例

5.1 地震発生時

(1) 発生直後

(例)「緊急地震速報発令、安全を確保してください。」(2回以上繰り返す)

There has just been an earthquake. Protect yourself in a safe place.

(2) 避難指示

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま地震が発生しました。ヘルメットを装着し、避難してください。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) An earthquake has just occurred.

Put on a helmet and evacuate via the nearest emergency stairs.

注意事項) 1号館西棟、中央棟間の連絡通路、全てのエレベーターの利用を禁ずる。

Never use the elevators or the inter-building bridges between Areas W and C of the Science Bldg.1

5.2 自動火災報知設備作動時

(1) 感知器作動後

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま○階△△で(火災報知器・非常ベル)が作動しました。詳細については改めてお知らせいたします。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) The fire alarm (The emergency bell) at room △△ on the ○th floor has just gone off. We will keep you informed about details.

(2) 避難指示

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま○階△△で火災が発生いたしました。階段を使って○○へ避難してください。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) A fire has just broken out at room △△ on the ○th floor. Evacuate to ○○ using the emergency stairs.

(3) 誤作動の連絡

(例)「先ほど○階△△で(火災報知器・非常ベル)が作動しましたが、調査の結果火災ではありませんでした。」(2回以上繰り返す)

The fire alarm (The emergency bell) at room △△ on the ○th floor that went off earlier turned out to be a false alarm.

6. 地震情報および災害用伝言ダイヤル

6.1 地震情報

- | | | |
|----------------------|--------|---|
| (1) 気象庁 | 地震情報 | http://www.jma.go.jp/jp/quake/ |
| | 東海地震情報 | http://www.jma.go.jp/jp/quake_tokai/ |
| | 津波予報 | http://www.jma.go.jp/jp/tsunami/ |
| (2) 東京大学地震研究所 | | http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html |
| (3) 防災科学技術研究所 Hi-net | | http://www.hinet.bosai.go.jp/ |

6.2 災害伝言用ダイヤル・伝言板の利用方法

6.2.1 NTT 災害用伝言ダイヤル（171）

災害発生時には NTT サービスが稼働する。家族や友人などが被災した場合、安否の確認や連絡などに活用できる。災害用伝言サービスの開始はテレビ・ラジオなどで通知される。

(1) 伝言の録音方法

171 ⇒ 1（暗証番号を利用する場合は3）⇒電話番号入力⇒ ガイダンス⇒ 録音（30 秒以内）

(2) 伝言の再生方法

171 ⇒ 2（暗証番号を利用する場合は4）1⇒電話番号入力（□□）□□□□－□□□□
⇒ ガイダンス⇒ 伝言の再生

災害用伝言ダイヤルページ <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

※ 録音された伝言は、被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができる。聞かれたくないメッセージを録音する場合、予め暗証番号を決めておく必要がある。

6.2.2 携帯電話災害用伝言板サービス

震度 6 弱以上の地震など大規模災害（台風や集中豪雨）が発生した場合、安否確認のためにメッセージを伝える電子掲示板のようなサービスを携帯電話各社が提供している。

主な基本機能（各社共通）

(1) 登録内容

「無事です」「自宅にいます」「被害があります」「避難所にいます」の中から選択。かつ、全角 100 文字までのコメントが入力可。

(2) 登録可能件数

10 件／電話番号

防災行動マニュアル

大規模災害発生時の初期活動と帰宅困難者対策

ver.20180817



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



東京大学 大学院
理学系研究科・理学部
SCHOOL OF SCIENCE, THE UNIVERSITY OF TOKYO

目 次

はじめに	3
0. 平時からの準備	
0.1 組織	3
0.2 個人	3
1. 災害の種類と初期行動	
1.1 地震	4
1.1.1 初期行動	4
1.1.2 避難	5
1.1.3 避難経路図	6
1.1.4 安否確認	7
1.1.5 避難解除	7
1.1.6 緊急地震速報	8
1.2 火災	9
1.2.1 初期行動	9
1.2.2 避難	9
1.2.3 安否確認	9
1.2.4 避難解除	10
2. 理学系災害対策本部と号館災害対策部	
2.1 組織図	10
2.2 理学系災害対策本部	11
2.2.1 初期対応から災害応急対応までの流れ	11
2.2.2 設置基準	11
2.2.3 設置場所	11
2.2.4 組織体制（任務内容）	12
2.2.5 災害時の連絡先	14

2.3 号館災害対策部	16
2.3.1 初期対応から災害応急対応までの流れ	16
2.3.2 設置基準	16
2.3.3 設置場所	16
2.3.4 組織体制（任務内容）	16
2.3.5 救出・救助活動に関わる災害救助用工具の活用法	18

3. 帰宅困難者対策

3.1 帰宅困難時の対応	19
--------------------	----

4. 防災資機材・備蓄品の保管場所及びAED設置場所

4.1 防災資機材・備蓄品の保管場所	20
4.2 防災資機材・備蓄品一覧	22
4.3 AED 設置場所	24

5. 発災時の非常放送文例

5.1 地震発生時	25
5.2 自動火災報知設備作動時	25

6. 地震情報および災害用伝言ダイヤル

6.1 地震情報	26
6.2 災害用伝言ダイヤル・伝言板の利用方法	26
6.2.1 NTT 災害用伝言ダイヤル（171）	26
6.2.2 携帯電話災害用伝言板サービス	26

増補記録：	平成 24 年 10 月 12 日	平成 24 年度版発行
	平成 25 年 5 月 17 日	平成 25 年度版改訂
	平成 26 年 4 月 8 日	平成 26 年度版改訂
	平成 27 年 4 月 22 日	平成 27 年度版改訂
	平成 28 年 5 月 12 日	平成 28 年度版改訂
	平成 29 年 4 月 1 日	平成 29 年度版改訂
	平成 30 年 4 月 1 日	平成 30 年度版改訂

参考資料：	東京大学の防災マニュアル 2017
	東京消防庁：「職場の地震対策」、各種防災ビデオ
	工学系研究科地震発生時行動マニュアル

はじめに

本マニュアルは「東京大学の防災マニュアル 2017」に基づき、理学系研究科・理学部及び素粒子物理国際研究センターにおける大規模災害発生時の初期対応および帰宅困難者対策に関する必要事項をまとめたものである。

0. 平時からの準備

大規模災害が発生した場合に、(人的・物的)被害を最小減に抑える「減災」を実現するためには、平時からの予防対策を整えておく必要がある。

0.1 組織

- (1) 建物毎(号館)に避難することを前提にしていることから、「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」を決めて、効率的な安全確保が行えるようにする。
- (2) 「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」については、各々代行者を複数決定し、その代行順位、業務等を併せて決める。
- (3) 複数専攻で利用する建物(雑居ビル)にあつては、専攻間で調整の上、「号館担当者(号館長)」、「号館階別担当者」及び建物利用者に周知すべき情報を決める。
- (4) 指定避難場所(一次、セーフティエリア)の確認、講義室・研究室等への掲示、図面表示、標識を整備する。
- (5) 危険物(放射線、化学物質、病原微生物等)対応者を明確化する。
- (6) 負傷者受け入れ場所及び救助用具等の保管場所の整備をする。
- (7) 日常から講義室、演習室、研究室、事務室等々における什器等の固定及び荷物の整理整頓をする。
- (8) 災害発生時、初期対応の任務分担を定めておく。
- (9) 「号館担当者(号館長)」は、建物に所属する構成員の最新名簿を準備しておく。

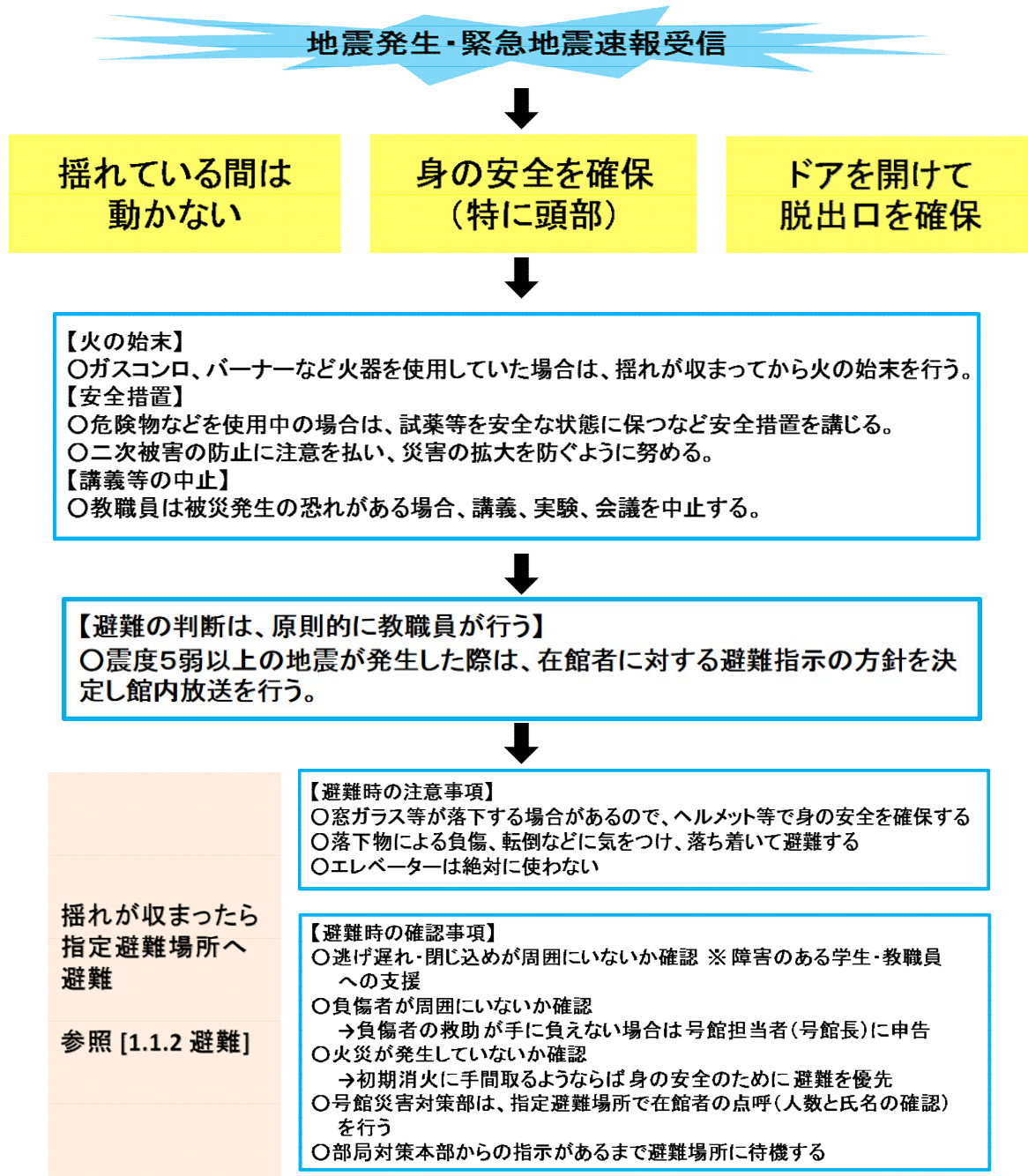
0.2 個人

- (1) 「号館担当者(号館長)および階別担当者」や指定された避難場所を把握しておく。
- (2) 実験室の避難路を確保する。避難路には阻害するものを置かない。
- (3) 消火器、消防用設備の設置場所や建物内避難路を確認しておく。
- (4) 危険物(放射線、化学物質、高圧ガス、病原微生物等)対応者を把握しておく。
- (5) 日常から身の回りおよび研究室における什器等の固定及び荷物の整理整頓をする。
- (6) 不要な溶媒や試薬、既に使用不能となっている機器、不要な書類は廃棄する。
- (7) 研究室スタッフ及び家族との安否確認の方法および連絡手段を複数準備しておく。

1. 災害の準備と初期活動

1.1 地震

1.1.1 初期行動



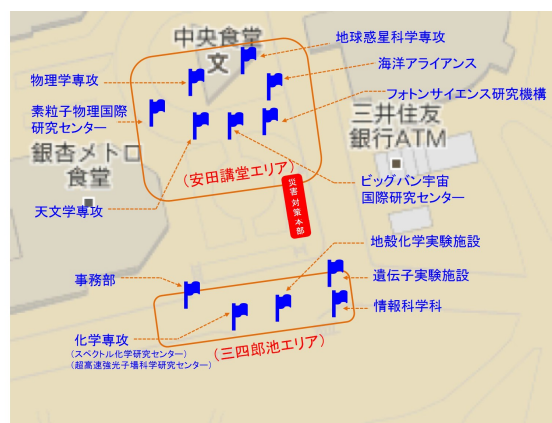
〔図 1〕 地震発生時の初期行動

1.1.2 避難

地震発生時においては、揺れが収まるまで安全確保に努め、また、建物の構造や階によって揺れの程度が異なることから、建物外に避難するかどうかを教職員が判断し、指定された避難場所に避難する。危険を感じれば指示を待つ必要は無い。

(1) 理学部 1 号館・4 号館・7 号館・化学館・通信機械室

避難先：安田講堂エリア・三四郎池エリア



〔図 2〕 指定避難場所（安田講堂・三四郎池）
注）避難先では必要に応じて交通整理を行う。

〔図 3〕 専攻・施設別避難場所

(2) 理学部 2 号館

避難先：理学部 2 号館玄関前（一次避難場所）、懐徳館庭園（二次避難場所）

※火災発生や建物倒壊等の恐れなど二次災害が想定される場合は、二次避難場所へ移動し、理学系災害対策本部へ報告を行う。



〔図 4〕 2 号館玄関前一次避難場所
注）避難先では必要に応じて交通整理を行う。



〔図 5〕 2 号館二次避難場所

(3) 理学部3号館

避難先：理学部3号館玄関前（一次避難場所）、安田講堂エリア（二次避難場所）

※火災発生や建物倒壊等の恐れなど二次災害が想定される場合は、二次避難場所へ移動し、理学系災害対策本部へ報告を行う。



[図6] 3号館玄関前一次避難場所

注) 避難先では必要に応じて交通整理を行う。

1.1.3 避難経路図



[図7] 屋外避難経路図（安田講堂エリア・三四郎池エリア）

[1号館屋内避難経路]

- ・棟間ブリッジ（2階以上）を使用せず、中央棟・西棟それぞれの最寄階段で避難すること。
特別な指示等があった場合は、その指示に従う。
- ・1号館西棟と中央棟の間の広場（ガラス屋根に覆われた部分）は使用しないこと。

1.1.4 安否確認

- (1) 号館担当者の指示に従う。
- (2) 原則、安否確認は専攻ごとに取りまとめ号館長に報告する。
- (3) 教職員は、速やかに同じ研究室等の教職員、学生の安否を確認する。
- (4) 学生は、大きな揺れがあった場合、研究室等の教職員に安否を連絡する。
- (5) 学生は安否を連絡後、避難先にて待機する。連絡した避難先の変更や友人の安否などの情報が入ったときは、あらためて研究室などの教職員に連絡する。
- (6) 勝手にキャンパス内を移動しない。

1.1.5 避難解除

避難解除（建物内に戻る）は、学内応急危険度判定士の判断に従う。

※応急危険度判定士は、被災建築物の倒壊の危険性及び落下物の危険性等を調査し、当該建築物及び敷地又は周辺建築物の当面の使用可否の判断を行う。

<応急危険度判定活動>

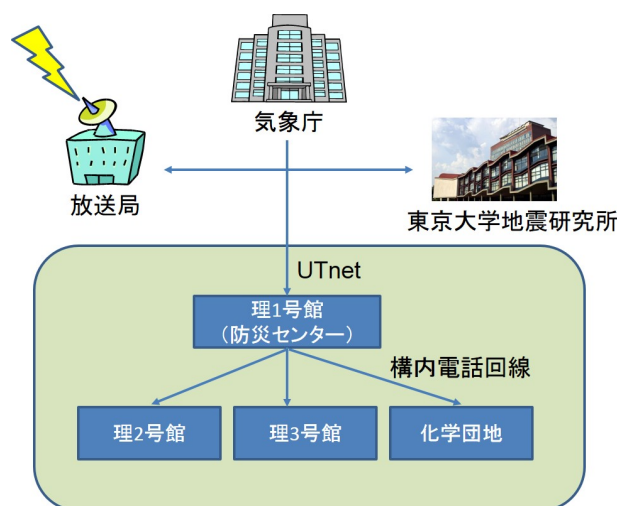


資格を持った応急危険度判定士により、建物の余震に対する安全性の評価と結果の表示が行われる。

応急危険度判定結果	応急危険度判定結果	応急危険度判定結果
危険 UNSAFE	要注意 LIMITED ENTRY	調査済 INSPECTED
※この建築物に立ち入ることは危険です。歩行者や車両は周囲に避難し、応急処置を待つべきです。	※この建築物に立ち入る場合は注意して下さい。歩行者は周囲に注意し、車両は立ち入り禁止です。	※この建築物の安全性は確認済みです。歩行者や車両は通常通り通行可能です。
建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関	建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関	建物名称 住所 調査日時 調査者 調査結果 調査機関

1.1.6 緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生及びその規模を素早く感知し、地震による強い揺れが始まる数秒から数十秒前に強い揺れが来ることを知らせるものです。理学系研究科では緊急地震速報端末本体を1号館西棟防災センターに設置し、ここを拠点として各号館の館内放送に配信します。緊急地震速報が放送された際は、「1.1.1 初期行動」に挙げる行動をとり、身の安全を図ること。



〔図 8〕 緊急地震速報の伝達経路

- (1) 通常の放送開始条件（受信地点で、強い揺れが予測されるときのみ放送開始）
受信地点の推定計測震度が4.0（震度4の強）以上で放送が開始されます。
- (2) 巨大地震の放送開始条件（巨大地震の時は、やや低い予測震度でも放送開始）
緊急地震速報（警報）が出された地震で、震源のマグニチュードがM7.9以上となった場合は、受信地点の推定計測震度が3.0（震度3の強）以上で放送が開始されます。

〔緊急地震速報放送内容〕

（例）「NHK 音」→「緊急地震速報（Earthquake early warning）」→「大地震です」→「予測震度は6弱」→「安全な場所で身を守ってください（Protect yourself in a safe place）」→「あと5秒（In 5 seconds）」→「安全な場所で身を守ってください（Protect yourself in a safe place）」→「揺れが収まるまで、安全な場所で身を守ってください（Protect yourself in a safe place until the shaking stops）」

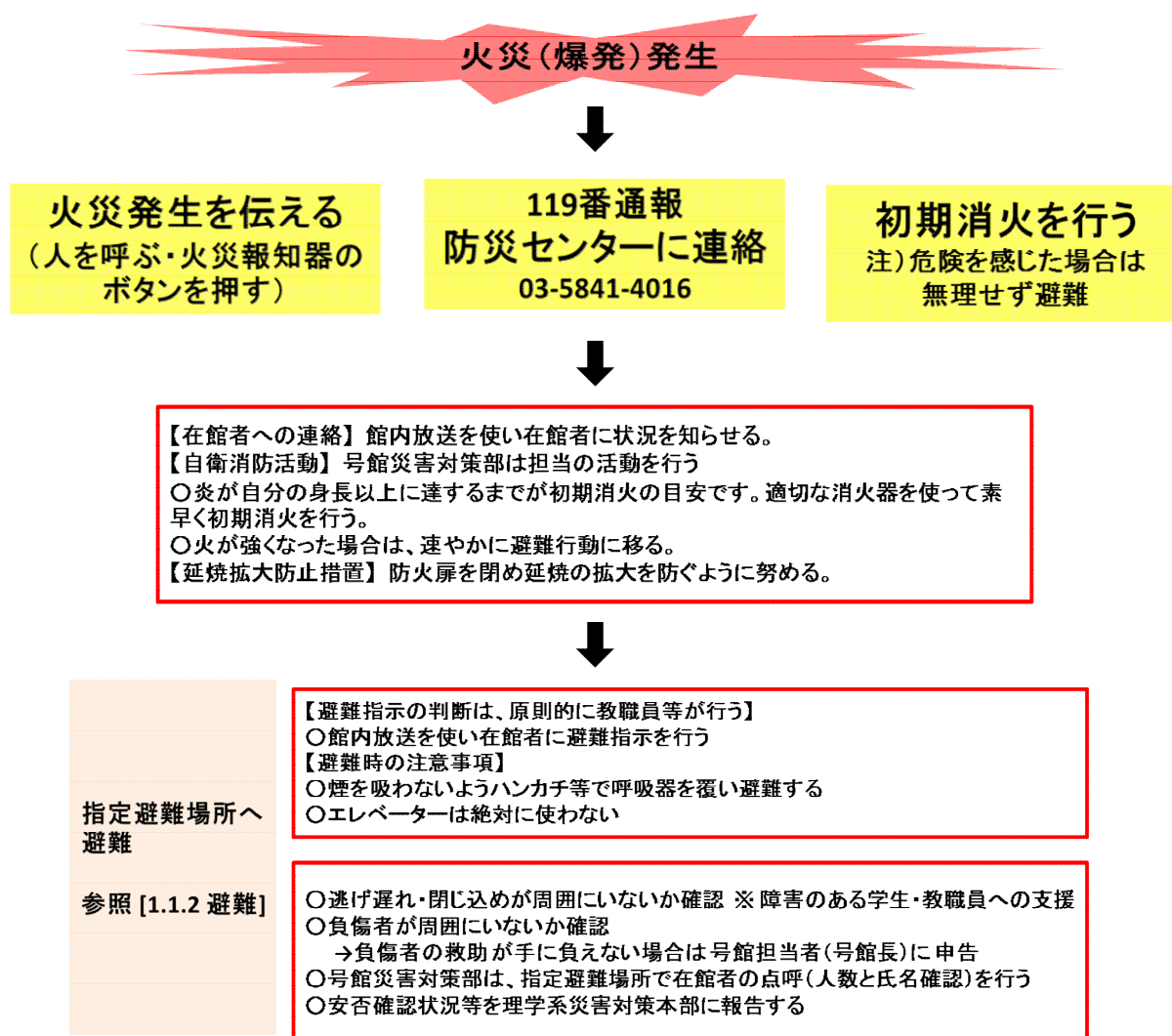
【緊急地震速報の注意点】

- 直下型地震などの場合は、震源近くでは緊急地震速報の発信が間に合わない場合がある。
- ごく短時間のデータだけを使った速報であることから、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もある。

1.2 火災

1.2.1 初期行動

火災発生時においては、まずは大声で「火事だ」と周囲に知らせ、近傍の非常ベルを鳴らし 119 番通報を行うと同時に防災センターに連絡する。



[図 9] 火災発生時の初期行動

1.2.2 避難

館内放送を使い在館者全員および隣接する建物に一斉避難を指示する。避難場所は、本マニュアル「1.1.2 避難」を参照のこと。

1.2.3 安否確認

(1) 建物（号館）担当者の指示に従う。

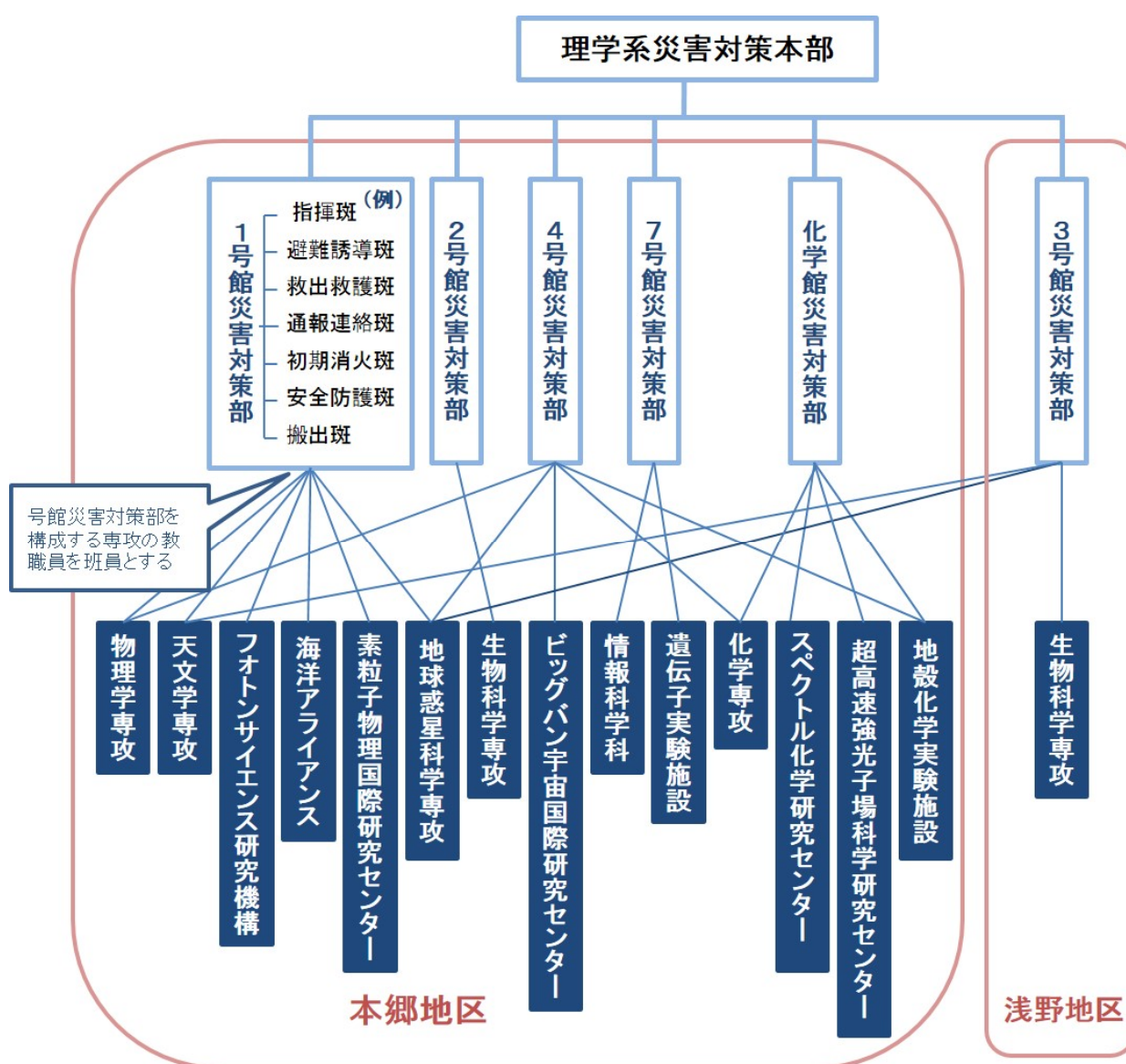
- (2) 原則、安否確認は号館（又は専攻）研究室単位で行う。
 (3) 教職員は、速やかに同じ研究室等の教職員、学生の安否を確認する。

1.2.4 避難解除

避難解除（建物内に戻る）は、消防署と相談した上で号館災害対策部の長が判断する。

2. 理学系災害対策本部と号館災害対策部

2.1 組織図



[図 10] 組織図

2.2 理学系災害対策本部

2.2.1 初期対応から災害応急対応までの流れ

大規模地震等が発生した際は、迅速な初期活動を取り、理学系災害対策本部を設置するとともに初期対応を開始する。その後、危険物・RI・高圧ガス及び施設・設備・ライフライン等の被害状況を収集し、復旧作業に向けた災害応急対応を行う。

2.2.2 設置基準

大規模災害発生時又は防災上特に必要があると認めるとき、あるいは「東京大学災害対策本部長」（総長）から指示があった時は「理学系災害対策本部」を設置する。この「理学系災害対策本部」は、「東京大学災害対策本部」に準じた任務、組織、運営等により編成されるものであり、「消防法施行規則」の規定による「自衛消防のための組織」によって充てることができる。また、夜間・休日を含めた参集基準については次の通りである。

災害種類		状況	場所	参集基準
地震	発生後	震度 6 以上	東京 2 3 区	自動参集
		震度 5 強		適宜判断（スタンバイ→参集）
		震度 5 弱以下		適宜判断
	予報	警戒宣言	東海地震	適宜判断（スタンバイ→参集）

〔表 1〕 理学系災害対策本部参集基準

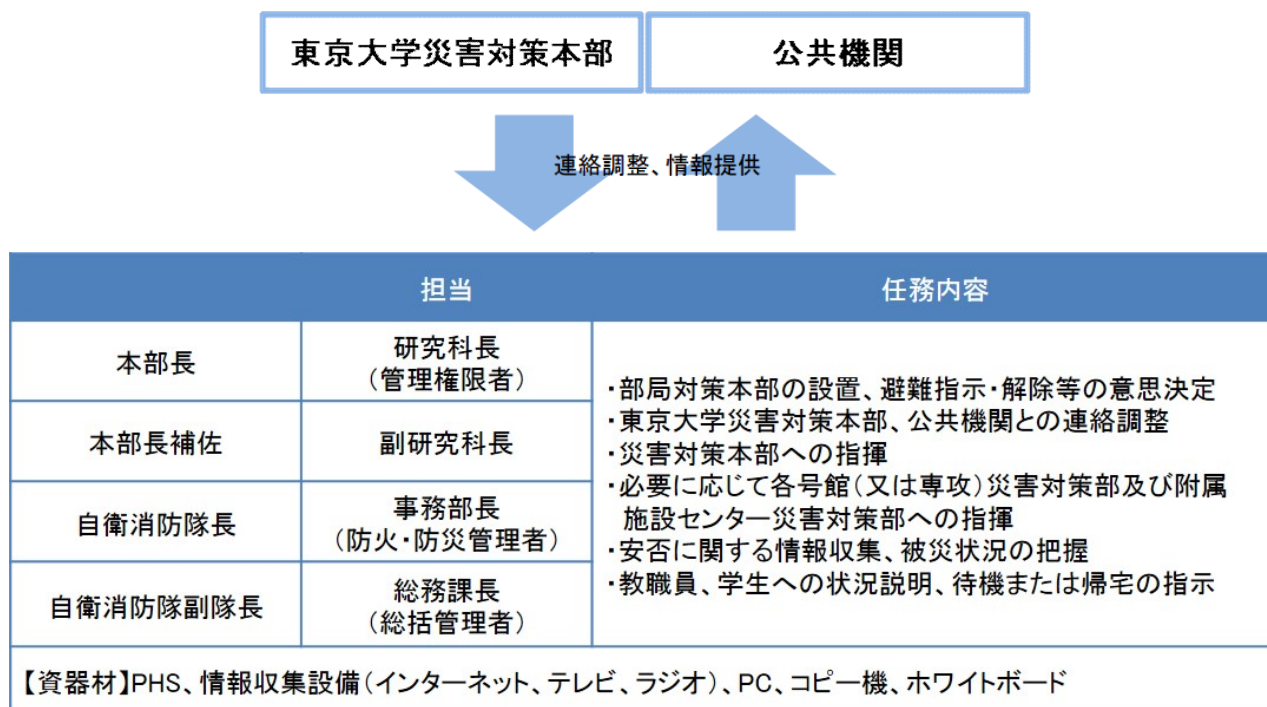
2.2.3 設置場所

初期段階では①、被災状況によっては②に設営する。

- (1) 理学系研究科 1 号館西棟 2 階 205 号室（会議室）
- (2) 安田講堂エリア及び三四郎池エリア（セーフティエリア）

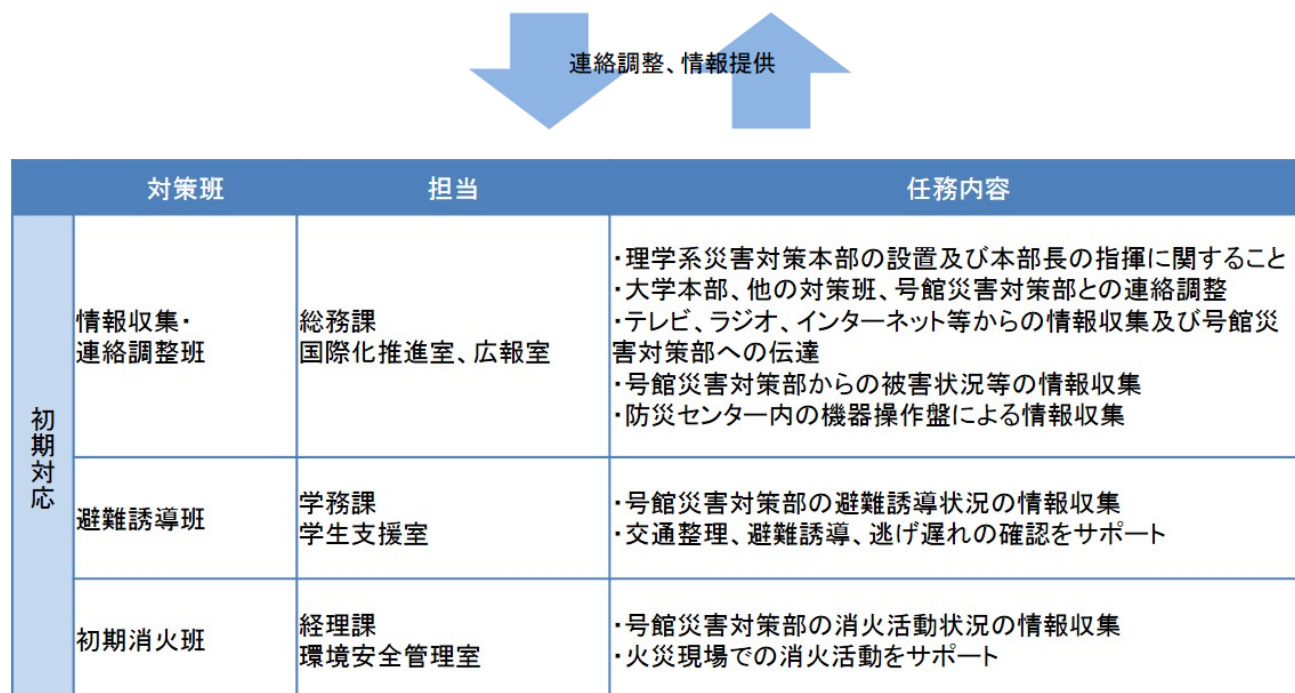
2.2.4 組織体制（任務内容）

「理学系災害対策本部長」（研究科長）の指示に基づき、「理学系災害対策本部」は以下のよう
な組織体制をとり担当の任務を総括する。

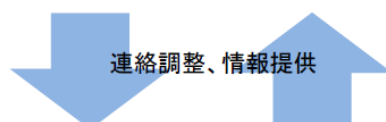


※研究科長不在時は、副研究科長が本部長の任務を代行する。

事務部長は防災管理者として本部長を補佐し、不在時は総務課長が任務を代行する。



初期対応	応急救護班	総務課 国際化推進室、広報室	<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院、保険センターのほか診察可能な医療機関を確認及び情報収集 ・救急隊との連携、情報の提供 ・負傷者応急手当
	【資器材】(総括班)PHS、建築平面図、通報連絡先一覧、ラジオ、パソコン (避難誘導班)PHS、建築平面図、誘導灯等 (初期消火班)PHS、建築平面図、消火器等 (救護班)応急医薬品、医療機関連絡先		
災害応急対応	安全防護班	経理課 環境安全管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備、ライフラインの被害状況の情報収集、復旧 ・危険物及び放射線物質の被害状況の情報収集、復旧 ・建物構造、施設設備、非常用電源、館内放送設備の整備 ・二次災害の恐れのある区域への立入制限
	物資対策班 ※地震等が収まった後の対応	経理課 情報システムチーム	・災害救援物資(防災用機材、備蓄品、医薬品)の調達と分配
	学生対策班 ※地震等が収まった後の対応	学務課 学生支援室	・学生の安否確認の情報収集等
	【資器材】(安全防護班)建築平面図、マスターキー、エレベーターの鍵、照明器具、防水シート、ロープ、各種標識、カメラ等 (物資対策班)災害救援物資設置及び保管場所の鍵、台車等 (学生班)学籍名簿		



号館災害対策部

〔図 11〕 理学系災害対策本部の任務内容（勤務時間内）

事項	任務内容
出勤	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6弱以上の地震が発生した場合は、家族や家屋等の安全を確認後、交通手段等の状況を判断して可能な限り出勤する。 ・震度4以上～震度5強の地震では、部局長からの指示があれば出勤する。
避難、安否確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業場に残っている対策本部員は研究科長と連絡をとり在館者に対する避難指示の方針を決定する。 ・館内放送を用いて在館者に向けて避難指示を行う。
被害状況確認	<ul style="list-style-type: none"> ・調査可能な範囲において施設、設備、ライフラインなどの物的被害状況を確認する。また、二次災害が発生する可能性がある場所には立入を禁止する。 ・調査可能な範囲において危険物及び放射性物質の被害状況を確認し災害の拡大を防止する。

〔表 2〕 勤務時間外における出勤判断基準と任務内容

2.2.5 災害時の連絡先

(1) 理学系災害対策本部連絡先

部署名	連絡事由	電話番号
理学系災害対策本部 1号館西棟205室	理学系災害対策本部との連絡調整	内線 28345
研究科長	理学系災害対策本部長	内線 24000 内線 24020
事務部長	自衛消防隊長（防火・防災管理者）	内線 28300
総務課長	自衛消防隊副隊長（統括管理者）	内線 24002 (PHS)
総務チーム総務担当	安否確認に関する情報連絡、連絡調整	内線 24005 内線 20274 (PHS)
経理チーム管理業務担当	施設、設備、ライフラインの被害に関して	内線 28348 内線 24518
経理チーム調達業務担当	防災用機材・医薬品・備蓄品などに関して	内線 24239
環境安全管理室	危険物及び放射性物質の被害に関して	内線 28868 内線 20640
防災センター	防災設備、復旧作業などに関して	内線 24016 内線 28299

[表 3] 部局災害対策本部連絡先

(2) 号館災害対策部組織と連絡先

号館	専攻	連絡先	号館	専攻	連絡先
1号館	物理学専攻	内線 24050	3号館	地球惑星科学専攻	内線 21978
	地球惑星科学専攻	内線 21978	4号館	ビッグバン宇宙国際研究センター	内線 24169
	天文学専攻	内線 24251	7号館	情報科学科	内線 24111
	素粒子物理国際研究センター	内線 24231		遺伝子実験施設	内線 23034
2号館	生物科学専攻	内線 24451	化学館	化学専攻	内線 24321
3号館	生物科学専攻	内線 24403		地殻化学実験施設	内線 24622
	天文学専攻	内線 24251		超高速強光子場研究センター	内線 24622

[表 4] 号館災害対策部連絡先

(3) 東京大学災害対策本部関連連絡先

東京大学災害対策本部代表番号 内線22119（外線:03-5841-2119）

部署名	連絡事由	電話番号
災害対策本部（1）山上会館	大学本部との連絡調整	03-3818-3008
災害対策本部（2）本部 12 階	大学本部との連絡調整	内線 82023 内線 82024
環境安全本部環境安全課	被害状況の報告	内線 21051 (24 時間)
安田講堂警備室	人的被害状況の報告	内線 119 内線 24919
施設・資産系総務チーム	物的被害状況の報告	内線 22203
環境安全研究センター	化学物質漏洩等による事故発生	内線 22972
アイソトープ総合センター	放射性同位元素による事故発生	内線 22895 内線 22870
低温センター	液体窒素、ヘリウム等の漏洩事故、配管損傷	内線 22852
医学部附属病院救急	負傷者の受入確認、搬送先	内線 34100 内線 35199
保健センター	負傷者の応急手当、搬送先	内線 22572

[表 5] 東京大学災害対策本部連絡先

2.3 号館災害対策部

2.3.1 初期対応から災害応急対応までの流れ

大規模地震等が発生した際は、迅速な初期活動を取り、号館災害対策部を設置するとともに初期対応を開始する。その後、危険物・RI・高圧ガス及び施設・設備・ライフライン等の被害状況を収集し復旧作業に向けた災害応急対応を行う。

2.3.2 設置基準

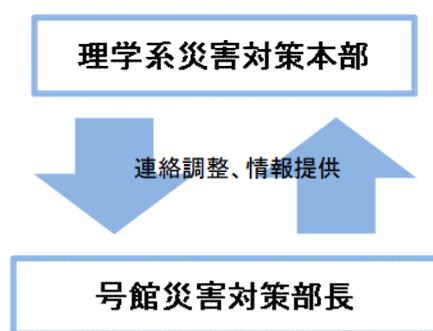
大規模災害発生時又は防災上特に必要があると認めるとき、あるいは「理学系災害対策本部」（研究科長）から指示があった時は「号館災害対策部」を設置する。

2.3.3 設置場所

指定された避難場所または被災状況を確認・集約するに適した場所（火災報知器受信盤設置場所・会議室など）に設置する。

2.3.4 組織体制（任務内容）

「号館災害対策部」は、号館に所属する教職員を構成員とし下図のような組織体制を取り号館長の指示に基づき、各班が災害対策任務を遂行する。また、「消防法施行規則」の規定による「自衛消防のための組織」によって充てることができる。号館災害対策部長の下に対策班を編成し任務を定め、災害の拡大を防止する。



※対策部設置、避難指示の判断、部局対策本部との連絡調整

※安否確認を取りまとめた結果を理学系災害対策本部に報告する。

※被災状況を把握し理学系災害対策本部に報告する。

※号館災害対策部長不在時の代行を決めておく。（班長・副班長の順）

対策班		主な任務内容
初期対応	指揮班	・号館(又は専攻)災害対策部長の指揮に従い班の活動を総括、情報収集・伝達、他の班との連絡調整
	避難誘導班	・避難者の誘導、担当の教職員・学生の安否を確認、必要に応じて避難器具の操作
	救出救護班	・閉じ込め、逃げ遅れ、負傷者の有無を調査、負傷者応急手当、診療可能な医療機関を確認
	通報連絡班	・消防機関、防災センターなど関係部署への通報連絡
	初期消火班	・消火器・消火設備による初期消火活動
【資器材】(指揮班)PHS、トランシーバー、建築平面図、構成員名簿(避難誘導班)マスターキー、名簿、照明器具(救出救護班)応急医薬品(通報連絡班)通報連絡先一覧(初期消火班)消火器具		

災害応急対応	安全防護班	・立入禁止区域への立入制限、物的被害・危険物及び放射性物質の被害状況を確認
	搬出班	・重要書類、非常持ち出し袋の搬出、防災用機材・備蓄品・医薬品の調達
	【資器材】(防護安全班)建築関係図等、防火シャッターやエレベーター等の鍵、ロープ(重要物搬出班)防水シート	

※班編成と任務内容は各号館の実情に合わせた内容とする。

[図 12] 号館災害対策班の主な任務内容

火災が発生した際は、号館自衛消防隊は消防署が到着するまでの間に、自衛消防隊長の下、「指揮班」、「通報連絡班」、「初期消火班」、「避難誘導班」、「救出救護班」等を編成し、「誰が何をどのように行うか」を明確にすることで迅速かつ確実に災害の拡大防止を実行する。自衛消防隊の活動は火災等を知った時点から始まり、消防署が現場に到着した時点で引き継ぐことになる。

事項	任務内容
出勤	・震度6弱以上の地震が発生した場合は、家族や家屋等の安全を確認後、交通手段等の状況を判断して可能な限り出勤する。 ・震度4以上～震度5強の地震では、号館長(又は専攻長)からの指示があれば出勤する。
避難、安否確認	・事業場に残っている教職員・学生は指定された避難場所に集合し、教職員の中から指揮者を決定してその指揮の下で安否確認を行う。 ・館内放送を用いて在館者に向けて避難指示を行う。
被害状況確認	・調査可能な範囲において施設、設備、ライフラインなどの物的被害状況を確認する。また、二次災害が発生する可能性がある場所には立入を禁止する。 ・調査可能な範囲において危険物及び放射性物質の被害状況を確認し災害の拡大を防止する。

[表 6] 号館災害対策班の主な任務内容(勤務時間外)

2.3.5 救出・救助活動に関わる災害救助用工具の活用法

(1) バール・ジャッキの活用法（倒壊物からの救出方法）

地震によって転倒した物の下敷きになった人を救出する時に活用する。活動を行う際は、二次災害防止のためにヘルメット・手袋を着用すること。

状況	バール・ジャッキの活用法
倒壊物と地面との隙間が広い場合	ジャッキを活用し隙間を広げる
倒壊物と地面との隙間が狭い場合	①倒壊物の下にバールを差し込み、端を持ち上げる ②ブロック等で支点を作りバールの端を押し下げる 上記作業で生じた隙間にジャッキを入れ倒壊物を持ち上げる

〔表 7〕 バール・ジャッキの活用法

(2) 担架の活用法（傷病者の搬送方法）

歩行が困難な負傷者や、急病人などを搬送する際に活用する。搬送の際は、けが人や急病人といった傷病者に不安や苦痛を与えることなく安全に運ぶことを心掛ける。

状況	担架の活用法
乗せる前の準備	毛布による保温の準備を行う
乗せる	頭部が動かないように注意して抱き上げ、担架を傷病者の下に移動させる
乗せた後	傷病者をバンドあるいは三角巾で固定する
移動する	平坦地 傷病者の足側から移動する。搬送中は担架を常に水平にし、傷病者の頭側に位置したものは容態の変化に気を付ける
	階段・斜面 傷病者の頭部を高い方へ向ける。昇る場合は頭側から進み、降りる場合は足側から進む。その際、担架は常に水平を保つよう注意する

〔表 8〕 担架の活用法

搬送には状況に応じて、車椅子や台車なども活用できる。傷病者の状態を悪化させないように注意して搬送するとともに、できるだけ早く医師の診断を受けさせるように心掛ける。

3. 帰宅困難者対策

3.1 帰宅困難時の対応

地震発生直後の一斉帰宅行動は、多数の帰宅困難者の発生による交通機関の混乱や二次災害につながる可能性が考えられる。むやみに移動を開始せず、下記判断基準を参考に帰宅の可否を判断する。

(1) 帰宅可否の判断基準 （参考）「職場の地震対策」東京消防庁編

[帰宅を控えた方がよいと思われる事項]

1. 移動距離が 20km 以上ある。
2. 自宅に到着する予想時間が、日没の 1 時間前より後になる。
3. 他の同一方向に帰宅する者がおらず、単独で帰宅することになる。
4. 靴、飲料水・食料その他の個人の装備等が不十分である。

[帰宅を開始する前に確認した方がよい事項]

1. 天候等の条件
2. 帰宅ルート（通行可否を含む）及び帰宅予想時間
3. 延焼火災、建物倒壊、液状化の災害の情報が帰宅ルートと重なっていないか
4. 交通規制の有無や代替ルート確保の可否
5. 路上に大量の帰宅困難者があふれていないか

(2) 残留者への対応

1. 帰宅困難者にとって必要な情報を定期的に提供する。

例) 発災後の震源地、地震の規模、建物の安全性に関する情報、地域の災害状況、交通機関の運行情報、主要幹線道路の通行状況、使用できるトイレやエレベーター

2. 残留者を安全に保護できる待機場所を選定する。

建物の耐震化、オフィス家具類の転倒・落下、ガラスの飛散防止、備蓄倉庫の設置場所などを考慮し、待機人員が安全に滞在できる環境であること。

(3) 帰宅開始時の対応

1. 帰宅支援用の防災用品の支給・貸出
2. ヘルメット・非常用の飲料水・軍手・マスクなど

4. 防災資機材・備蓄品の保管場所及びAED設置場所

[平成 30 年 8 月 17 日現在]

4.1 防災資機材・備蓄品の保管場所

施設名	保管場所	主たる備蓄品	鍵の管理
1号館	1号館東棟1階174号室 (防災倉庫)	救助用具キット、救急箱、手動式ラジオ、水、食料(アルファーマイ、クラッカー)、毛布、固形燃料、軍手、マスク、簡易トイレ、カセットコンロ、ガスボンベ、鍋、ポリタンク、ヘルメット、生理用ナプキン、調理器具、飲料水ポリタンク、ポリ袋、紙コップなど	環境安全管理室 防災センター
	1号館西棟1階防災センター	携帯用無線、担架、大型拡声器、救助用具キット、専攻・施設ののぼり(一部除く)	24時間センター 職員常駐
	1号館西棟2階物理専攻長室隣室 (排気ファン室)	水、食料(アルファーマイ、クラッカー)	総務担当 防災センター
	1号館中央棟3階北側 (空調機械室)	水、食料(アルファーマイ、クラッカー)	総務担当 防災センター
	1号館環境安全管理室 (西棟103号室)	ライト、手動式ラジオ等	環境安全管理室 防災センター
2号館	1階男性休憩室(101号室)	食糧(クラッカー、アルファーマイ)、水、紙コップ、鍋等、毛布、手動式ラジオ、懐中電灯、ローソク、災害用救急箱、タオル、防水シート、ビニール袋、簡易トイレ、食糧(クラッカー)、水、紙コップ	生科総務 防災センター
3号館	5階の生物情報科学科の倉庫	食料、毛布、担架等(第2回配布分すべて)	生情事務 防災センター
	第1回配布分の水とビスケットは各研究室で保管。事務室と地惑分については生物科学専攻事務室で保管	第1回配布分の水とビスケット	各研究室 防災センター
4号館 (ビッグバン)	4号館6階1624号室倉庫		事務室 防災センター
7号館	7号館1階情報科学科事務室隣 防災物品入れ	情報科学科・遺伝子実験施設ののぼり、拡声器、救急箱、ライト、手動式ラジオ、レスキューセット	常時開錠
	7号館2階206号室	情報科学科・遺伝子実験施設用のその他の備蓄品	
化学館	化学本館中5階機械室	化学館への割り当て分すべて	事務室 防災センター

[表 9] (本郷・浅野地区) 防災資機材・備蓄品保管場所

施設名	保管場所	主たる備蓄品	鍵の管理
小石川植物園	事務室前室	救助用具キット、救急箱	事務室
	管理棟そばの施錠出来る(倉庫)物置	手動式ラジオ、水、食料、毛布、固形燃料、軍手、マスク、簡易トイレ、カセットコンロ、鍋、ヘルメット予備等配付された物品	
	各自に配付	ヘルメット	
日光植物園	事務棟西の施錠出来る(倉庫)物置 (鍵は事務棟の中にある)	配布された物一応全部	事務室の担当
臨海実験所	実験研究棟1階事務室	災害用救急箱、懐中電灯、ライト用単1電池	事務室
	実験研究棟1階技官室	医薬品(殺菌消毒剤、火傷薬、整腸剤)、メガホン、フック、誘導灯、ローソク、チャッカマン、携帯用拡声器、腕章、軍手、塵埃マスク、タオル、レインコート、防水シート、のぼり、生活必需品(簡易トイレ、毛布、サバイバルブランケット、アルファーマ(3種類)、プラスチックスプーン、ミネラルウォーター、ハンディジャグ、卓上カセットコンロ、カセットコンロ用ボンベ、実用鍋、ビニール袋)	事務室
	宿泊棟特別室	手動式ラジオ	事務室
天文学教育研究センター	本館1階階段下倉庫	救助用具キット、救急箱、水、食料(アルファーマ、クラッカー)、毛布、固形燃料等	
木曽観測所	本館、階段下倉庫	水、食料(アルファーマ、クラッカー)、担架、ポリタンク、ヘルメット、軍手、マスク等	職員
	事務室	救急箱、大型拡声器、救助用具キット、誘導ライト、腕章	職員
	本館玄関	専攻・施設ののぼり	職員
	ドーム、玄関脇	手動式ラジオ、水、食料(アルファーマ、クラッカー)、毛布、固形燃料等、携帯用無線、担架、メガホン、救助用具キット、簡易トイレ、カセットコンロ、鍋等	職員
原子核科学研究センター	和光 実験準備棟 1階 階段下倉庫	災害用救急箱、簡易トイレ、毛布、アルファーマ、カセットコンロ鍋等、ミネラルウォーター、ゴミ袋70L、専攻・施設ののぼり、携帯型拡声器、ライト、手動式ラジオ、その他	常時開錠

[表 10] (遠隔地) 防災資機材・備蓄品保管場所

4.2 防災資機材・備蓄品一覧

[平成 30 年 4 月 1 日現在]

1 号館	2 号館	3 号館	4 号館 (ビッグ バン)	7 号館	(本館・西館・東館) 化学団地	植物園		臨海実験所	天セ		原子核科学 研究センター
						小石川	日光		三鷹	木曽	

食 品

1	アルファー米:白飯(50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
2	アルファー米:赤飯(50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
3	アルファー米:五目ごはん(50食/箱)	食	2,250	575	555	50	150	590	77	77	77	64	64	77
4	プラスチックスプーン(10本入り)	セット	155	17	17	2	5	49	3	3	3	4	3	4
5	クラッカー (1箱-24缶)	箱	82	20	20	4	4	21	0	0	0	0	0	0
6	ミネラルウォーター:500ml (1箱-24本)	箱	198	51	45	5	8	52	6	6	6	5	5	6
7	ハンディジャグ(5L)	個	5	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1	1
8	卓上カセットコンロ	台	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
9	カセットコンロ用ボンベ(1パック×3本)	パック	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
10	実用鍋	個	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
11	紙コップ (1セット-100個)	セット	15	5	5	0	2	5	1	2	1	1	2	1
12	コップヘル	セット	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	食事セット(ミニトレイ、コップ、スプーン等)	セット	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	まな板 & 包丁セット	セット	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	クイックコンロ	個	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	プラスチックボウル(5個入)	セット	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

防 寒 具

17	毛布	枚	49	20	20	1	10	19	10	10	10	10	10	10
18	サバイバルブランケット	枚	150	50	50	2	30	48	30	30	30	30	30	30
19	固形燃料(缶)	缶	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ミニ固形燃料(18個入)	セット	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	ロウベレット(50g)	箱	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

情 報 機 器

22	携帯用無線	台	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	携帯用拡声器	台	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1
24	手動式ラジオ	台	7	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1	1
25	大型拡声器	個	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[表 11] 食品・防寒具・情報機器

1 号 館	2 号 館	3 号 館	4 号 館 (ビ ッグ バ ン)	7 号 館	(本 館 ・ 西 館 ・ 東 館) 化 学 回 地	植 物 園	臨 海 実 験 所	天 セ	原 子 核 科 学 研 究 セ ン タ ー
						小 石 川	日 光	三 鷹	木 曽

照 明

26	強力ライト／懐中電灯	本	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
	ライト用単1電池(4本入)	セット	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
27	ローソク(6個入) ※9時間	セット	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
28	チャッカマン	個	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
29	安全キャンドル	個	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

救 命 救 急

30	担架	台	2	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0
31	救助用具セット(パール、ジャッキ、ノコギリ、ロープ、大型ハンマー、スコップ、つるはし等)	セット	2	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0
32	災害用救急箱(20人用) ※包帯、ガーゼ、三角巾、絆創膏、体温計、ハサミ、ピンセット等	セット	5	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
33	殺菌消毒剤 500ml	本	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
34	火傷薬	個	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
35	整腸剤	個	6	3	3	1	2	3	2	2	2	2	2
36	ジャッキ	台	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
37	タオル(20枚入り)	セット	5	3	3	0	1	3	1	1	1	1	1

防 災 用 資 機 材

38	専攻、施設毎ののぼり(集合時の目印)		22枚(専攻、施設、本部)										
	のぼり	枚											
	のぼり用ポール	本											
	のぼり台	台											
39	ヘルメット	個	個人に配付済										
40	リヤカー	台	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
41	メガホン ※黄色	個	65	22	12	1	8	26	10	10	10	5	5
42	誘導灯	本	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
43	腕章	個	28	10	10	2	10	10	10	10	10	10	10
44	軍手(12双組)	セット	60	15	15	1	5	14	5	5	5	5	5
45	塵埃マスク(1箱-50枚)	箱	15	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
46	レインコート	枚	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
47	防水シート	枚	10	5	5	0	2	5	2	2	2	2	2
48	簡易トイレ(20枚入り)	セット	220	52	48	3	16	57	16	16	16	16	16
49	生理用ナプキン(30枚入り)	セット	50	16	10	2	2	10	2	2	2	1	2
50	電動ドラム(屋内型)工事用延長コード	式	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	ガスパワー発電機	台	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	発電機用カセットガス(3本入り)	セット	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
53	ビニール袋(70L-1ケース)	箱	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1
54	ポリタンク	個	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[表 12] 照明・救命救急・防災用資機材

4.3 AED 設置場所

[平成 30 年 4 月 1 日現在]



[図 13] AED 設置場所

5. 発災時の非常放送文例

5.1 地震発生時

(1) 発生直後

(例)「緊急地震速報発令、安全を確保してください。」(2回以上繰り返す)

There has just been an earthquake. Protect yourself in a safe place.

(2) 避難指示

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま地震が発生しました。ヘルメットを装着し、避難してください。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) An earthquake has just occurred.

Put on a helmet and evacuate via the nearest emergency stairs.

注意事項) 1号館西棟、中央棟間の連絡通路、全てのエレベーターの利用を禁ずる。

Never use the elevators or the inter-building bridges between Areas W and C of the Science Bldg.1

5.2 自動火災報知設備作動時

(1) 感知器作動後

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま○階△△で(火災報知器・非常ベル)が作動しました。詳細については改めてお知らせいたします。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) The fire alarm (The emergency bell) at room △△ on the ○th floor has just gone off. We will keep you informed about details.

(2) 避難指示

(例)「(こちらは防災センターです) ただいま○階△△で火災が発生いたしました。階段を使って○○へ避難してください。」(2回以上繰り返す)

(This is the Disaster Prevention Center.) A fire has just broken out at room △△ on the ○th floor. Evacuate to ○○ using the emergency stairs.

(3) 誤作動の連絡

(例)「先ほど○階△△で(火災報知器・非常ベル)が作動しましたが、調査の結果火災ではありませんでした。」(2回以上繰り返す)

The fire alarm (The emergency bell) at room △△ on the ○th floor that went off earlier turned out to be a false alarm.

6. 地震情報および災害用伝言ダイヤル

6.1 地震情報

- | | | |
|----------------------|--------|---|
| (1) 気象庁 | 地震情報 | http://www.jma.go.jp/jp/quake/ |
| | 東海地震情報 | http://www.jma.go.jp/jp/quake_tokai/ |
| | 津波予報 | http://www.jma.go.jp/jp/tsunami/ |
| (2) 東京大学地震研究所 | | http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/Jhome.html |
| (3) 防災科学技術研究所 Hi-net | | http://www.hinet.bosai.go.jp/ |

6.2 災害伝言用ダイヤル・伝言板の利用方法

6.2.1 NTT 災害用伝言ダイヤル（171）

災害発生時には NTT サービスが稼働する。家族や友人などが被災した場合、安否の確認や連絡などに活用できる。災害用伝言サービスの開始はテレビ・ラジオなどで通知される。

(1) 伝言の録音方法

171 ⇒ 1（暗証番号を利用する場合は3）⇒電話番号入力⇒ ガイダンス⇒ 録音（30 秒以内）

(2) 伝言の再生方法

171 ⇒ 2（暗証番号を利用する場合は4）1⇒電話番号入力（□□）□□□□－□□□□
⇒ ガイダンス⇒ 伝言の再生

災害用伝言ダイヤルページ <http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

※ 録音された伝言は、被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができる。聞かれたくないメッセージを録音する場合、予め暗証番号を決めておく必要がある。

6.2.2 携帯電話災害用伝言板サービス

震度 6 弱以上の地震など大規模災害（台風や集中豪雨）が発生した場合、安否確認のためにメッセージを伝える電子掲示板のようなサービスを携帯電話各社が提供している。

主な基本機能（各社共通）

(1) 登録内容

「無事です」「自宅にいます」「被害があります」「避難所にいます」の中から選択。かつ、全角 100 文字までのコメントが入力可。

(2) 登録可能件数

10 件／電話番号